

熊本商工会議所 2020年経済予測アンケート 調査結果

KEY WORD

- ★景気の現状…「変わらない」がトップの一方、「悪化」の回答割合が増加(2019年11月)
- ★業況の見通し…「変わらない」が多いものの、悪化予測が増加
- ★円市場予測 …「ほとんど変化はない」が57.6%でトップ
- ★株式市場予測 …「ほとんど変化はない」が46.7%でトップ、次いで「株安傾向が進む」が30.2%
- ★金利予測 …「ほとんど変化はない」が75.1%、「低金利傾向が進む」が17.5%で高金利傾向の予測は大幅に減少
- ★経営上の問題点 …「人手不足」が昨年に続き48.8%でトップ、次いで「需要やニーズの停滞・変化」が36.1%
- ★経営上の重視点 …「収益」重視が98.2%、次いで「売上高(完工高・取扱高)」重視が90.9%
- ★ラグビーワールドカップ期間中の外国人観光客の利用(来店)
…わずかながら「あった」が40.0%、「まったくなかった」50.0%と、ほぼ二分化
- ★2020年以降の外国人観光客をターゲットにした取り組みの有無
…「する」15.6%、「しない」41.1%、「未定・検討中」37.8%で視野に入れつつも模索している企業が多い

熊 本 商 工 会 議 所

2019年12月

<本調査の問い合わせ>
熊本商工会議所 商工観光振興部 商工観光振興課
TEL 354-6688 FAX 352-5202

熊本商工会議所

2020年経済予測アンケート

I N D E X

1. 調査概要	1
2. 回答企業	2
3. 景気の現状	3
4. 業況の見通し	4
5. 円市場予測	12
6. 株式市場予測	14
7. 金利予測	16
8. 経営上の問題点	17
9. 経営上の重視点	18
10. インバウンド需要について	26

※ 巻末…「2020年経済予測アンケート」調査用紙

調査概要

1. 調査期間 令和元年 11 月 19 日(火)～11 月 26 日(火)

2. 対象者 熊本商工会議所 役員並びに議員 98 名

熊本商工会議所経営動向調査モニター企業代表者 398 名

(経営動向調査モニター企業は、小規模企業であるため

報告書においては小規模企業と表記する)

3. 配布数 496 名

4. 調査方法 調査用紙配布：F A X 又は郵便送付

調査票回収：F A X または W E B またはメールによる

回答

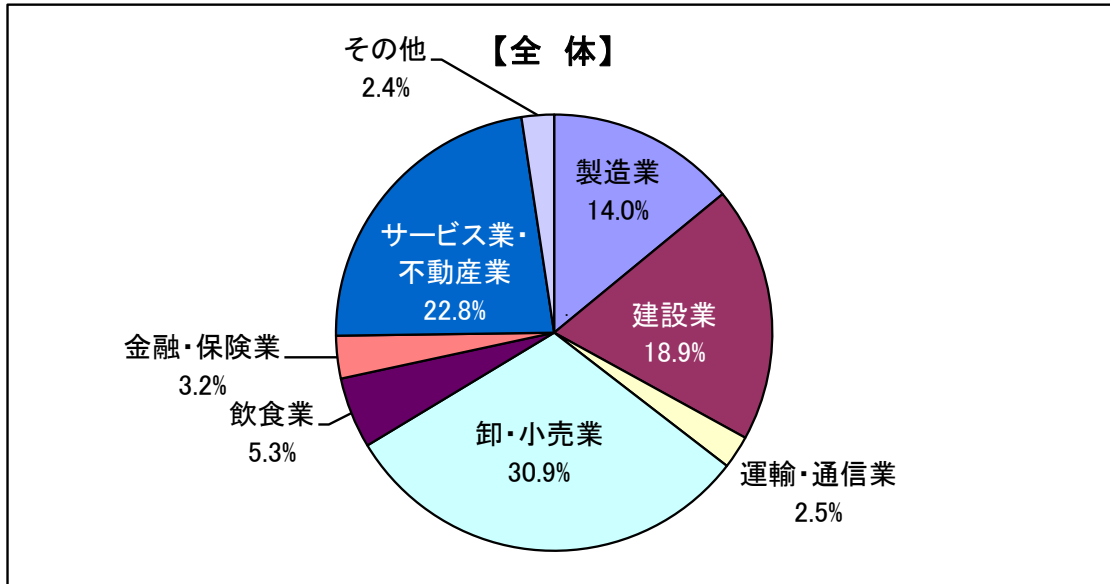
5. 回答者数 285 名 (有効回答率 57.5%)

6. 調査機関 熊本商工会議所

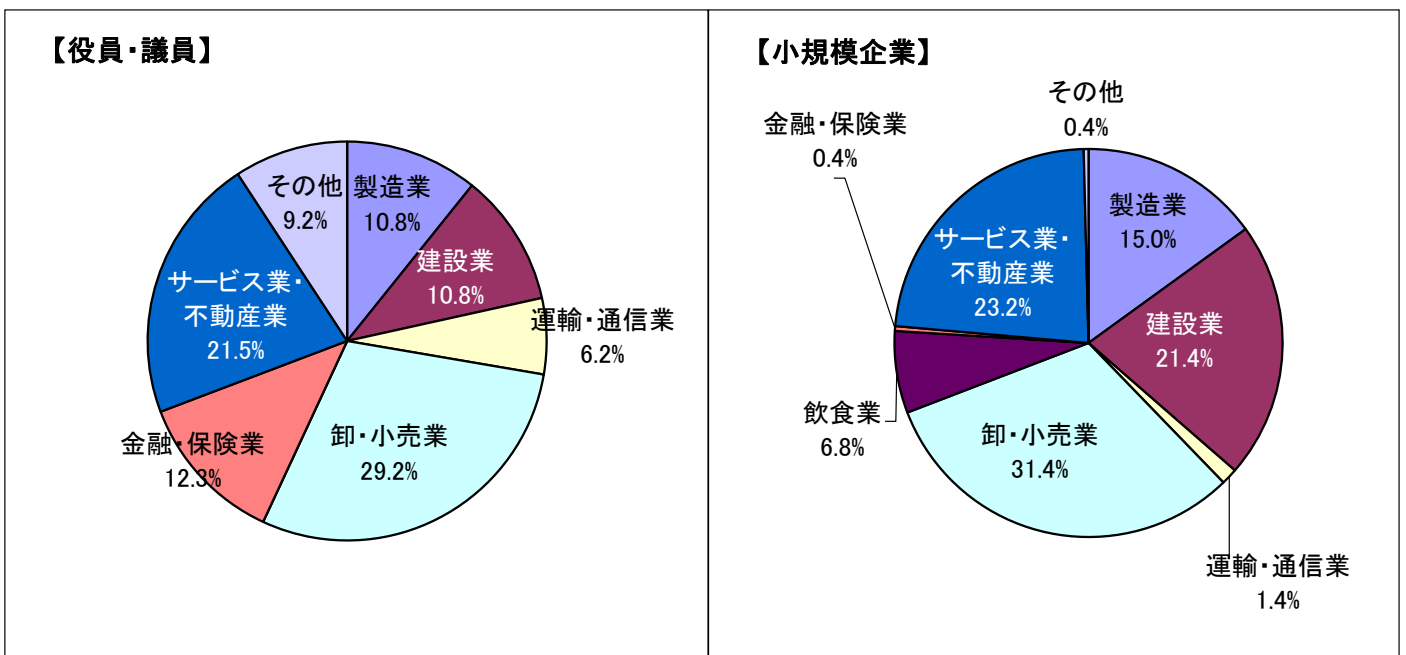
※構成比は小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも 100%

とはならない。

回答企業

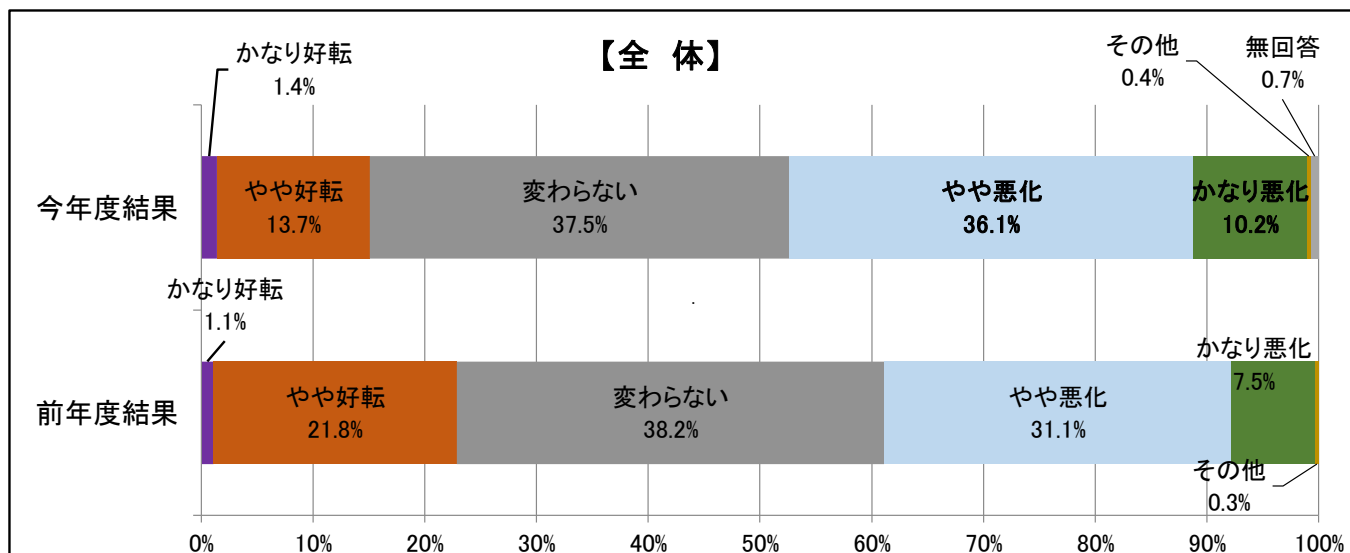


規模別の回答企業



2019年11月 景気の現状

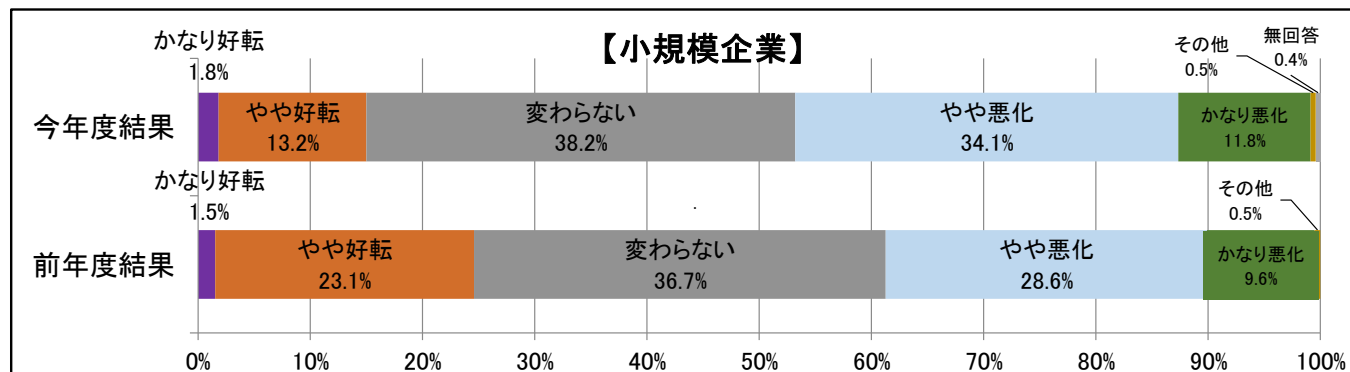
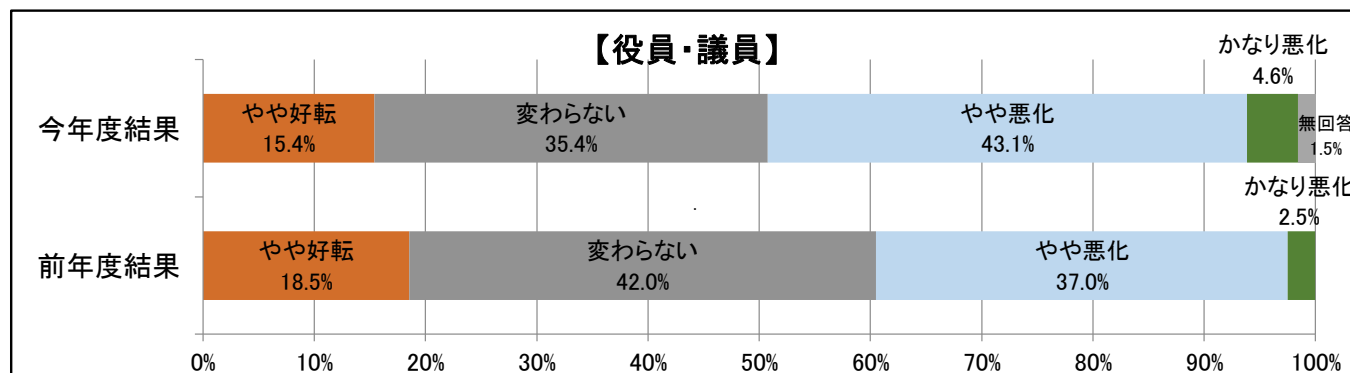
「変わらない」がトップの一方で、「悪化」の回答割合が増加



景気の現状(2019年11月)については「変わらない」が37.5%(対前年比-0.7%)でトップ。「やや悪化」+「かなり悪化」が46.3%、「かなり好転」+「やや好転」は15.1%で悪化幅が拡大している。

2019年11月 規模別の景気の現状

【役員・議員】は「やや悪化」がトップ、【小規模企業】は「変わらない」がトップ

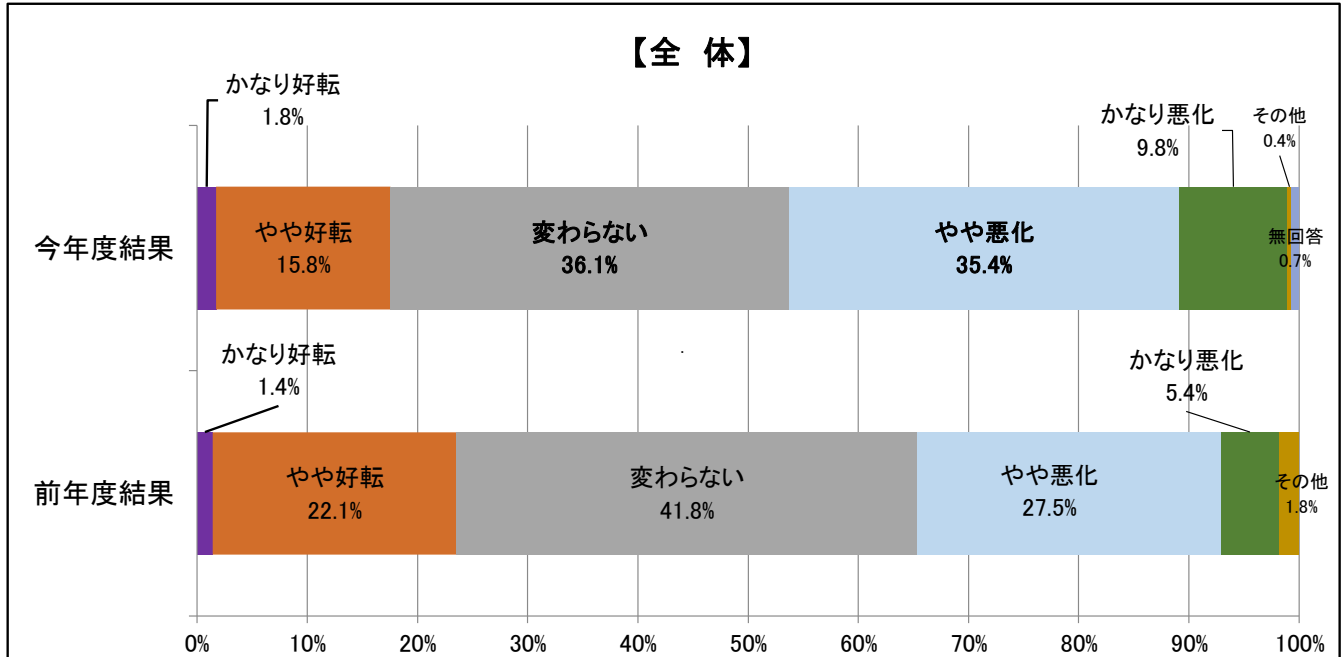


2020年 業況の見通し

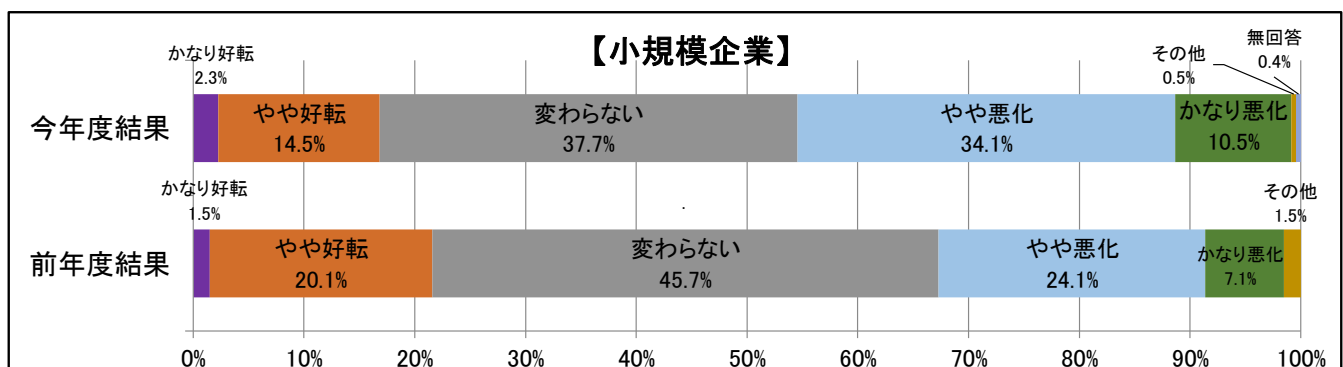
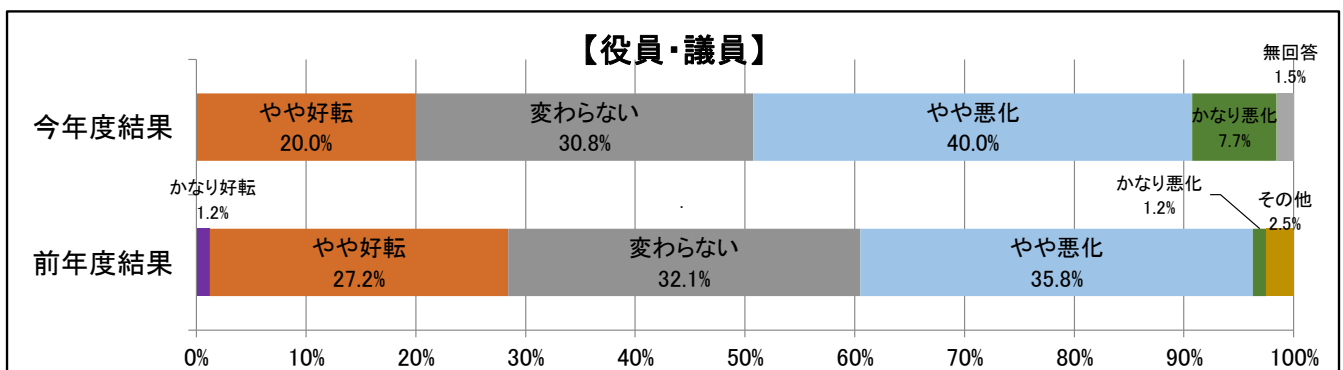
※前年度より全ての業種についての業況見通しの回答から自社における業種の業況見通しについての回答に変更しております。

全業種

景気の現状とほぼ同じ割合で「変わらない」が多いものの、悪化予測が増加



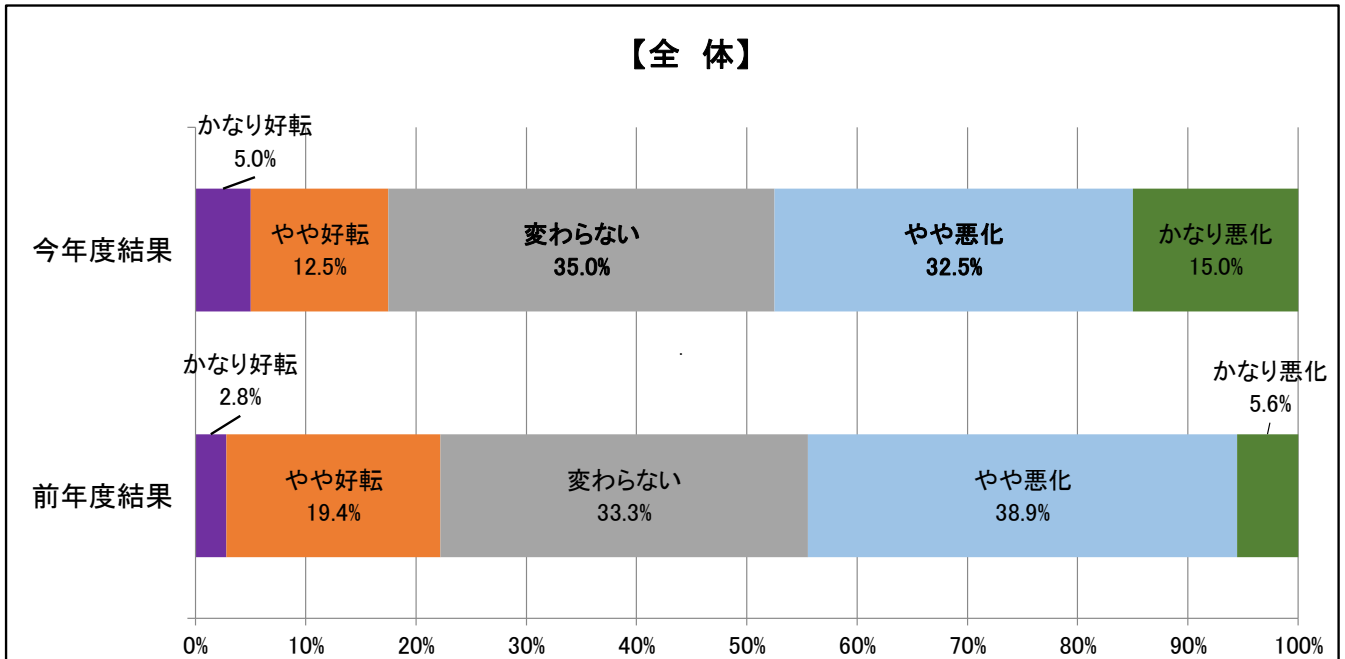
2020年の全業種の見通しについては、「変わらない」が36.1%(対前年比-5.7%)でトップ。「やや悪化」+「かなり悪化」が45.2%、「かなり好転」+「やや好転」は17.6%で悪化幅が拡大している。



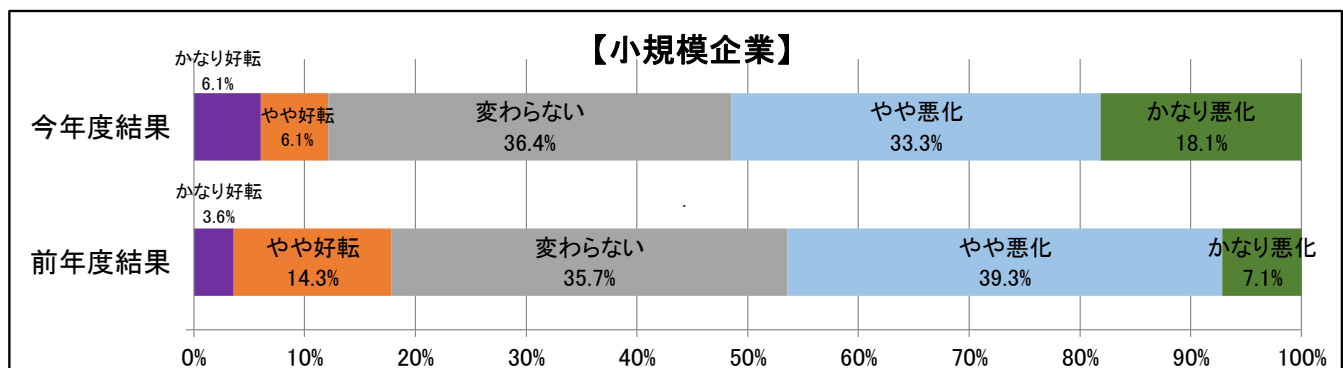
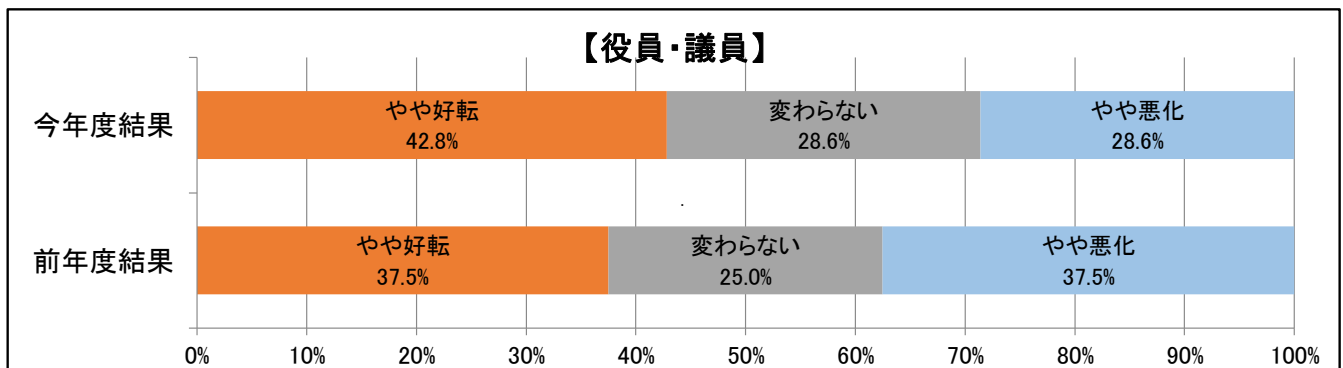
2020年 業況の見通し

※前年度より全ての業種についての業況見通しの回答から自社における業種の業況見通しについての回答に変更しております。

製造業



2020年の製造業の見通しについては、「変わらない」が35.0%でトップ。「やや悪化」+「かなり悪化」が47.5%、「かなり好転」+「やや好転」は17.5%で悪化幅が拡大している。

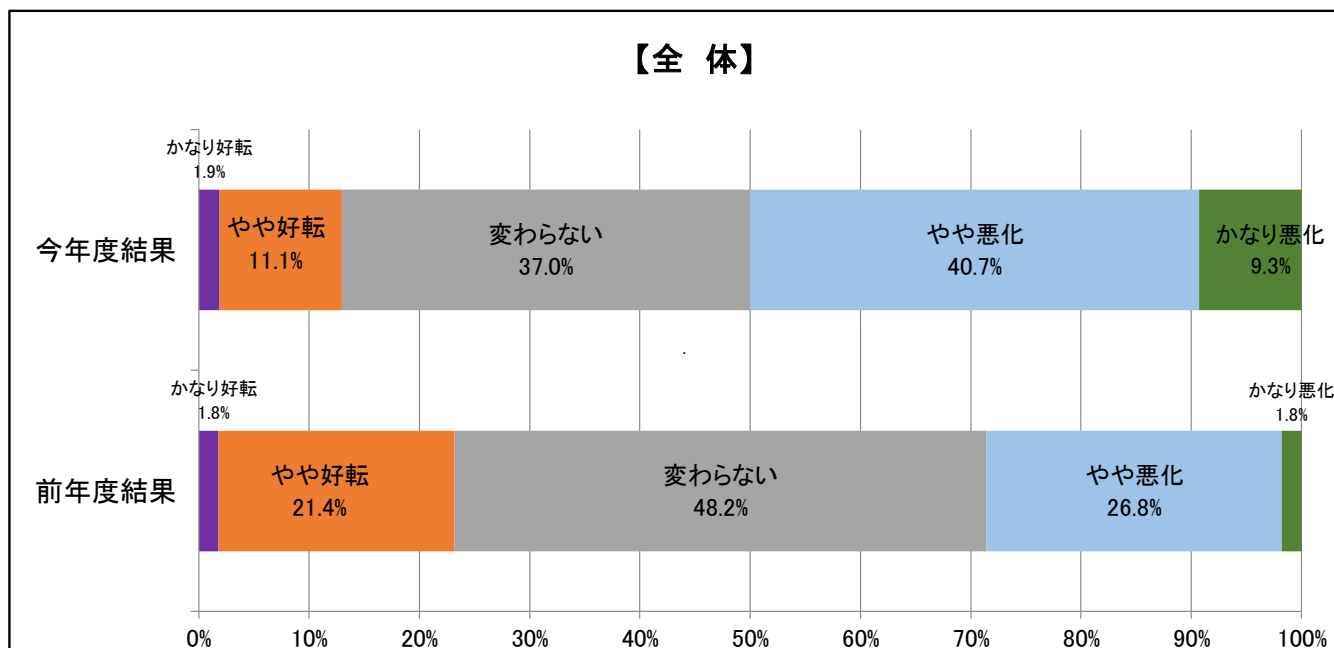


【役員・議員】は「やや好転」が42.8%でトップ、【小規模企業】は「変わらない」36.4%がトップ。
 【役員・議員】は「やや好転」が対前年比+5.3%に対し、【小規模企業】は「かなり悪化」が対前年比+11.0%となり、
 【小規模企業】の方が厳しい見通しを示す結果になった。

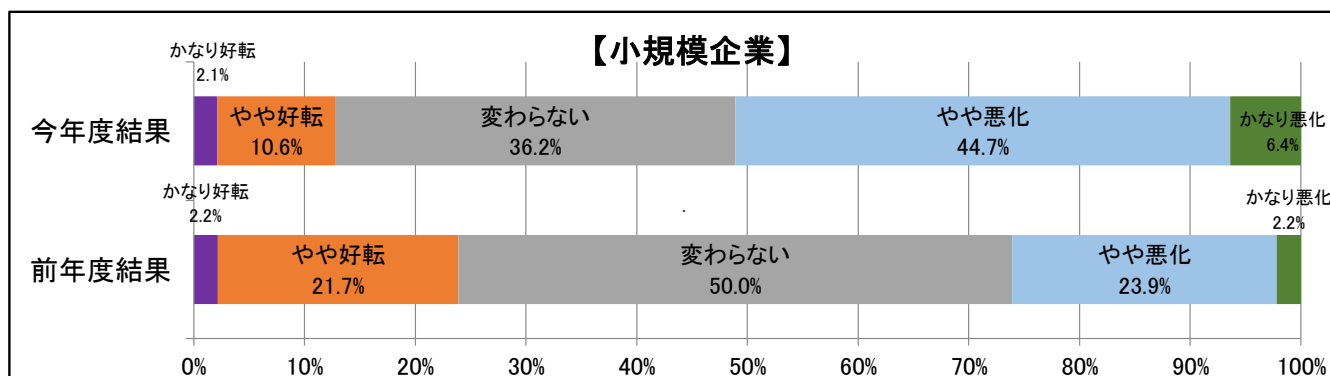
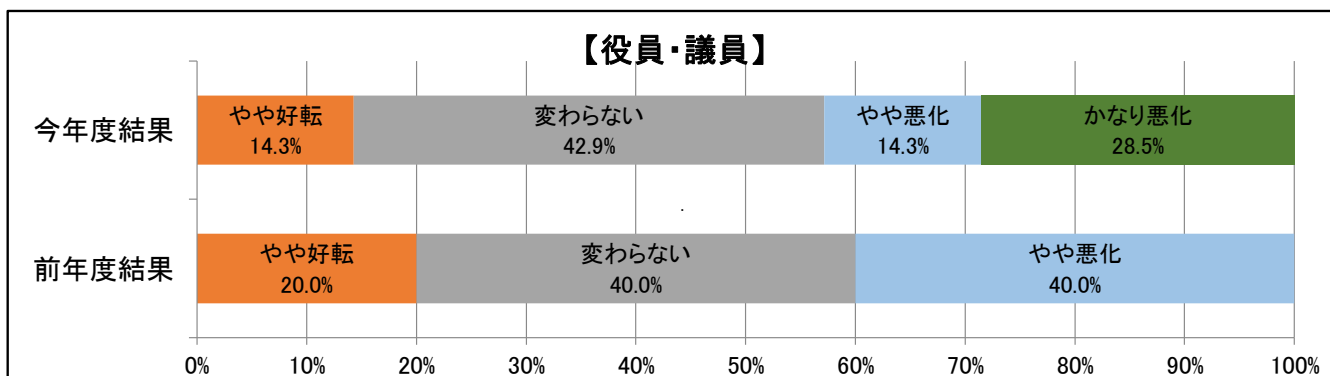
2020年 業況の見通し

※前年度より全ての業種についての業況見通しの回答から自社における業種の業況見通しについての回答に変更しております。

建設業



2020年の建設業の見通しについては、「やや悪化」が40.7%(対前年比+13.9%)がトップ。次いで「変わらない」が37.0%(対前年比-11.2%)となり、前年と順位が入れ替わる結果となった。また、「やや悪化」+「かなり悪化」が50.0%、「かなり好転」+「やや好転」は13.0%で悪化幅が拡大していることから、平成28年熊本地震に係る復興需要終息による悪化の見方が強いと考えられる。

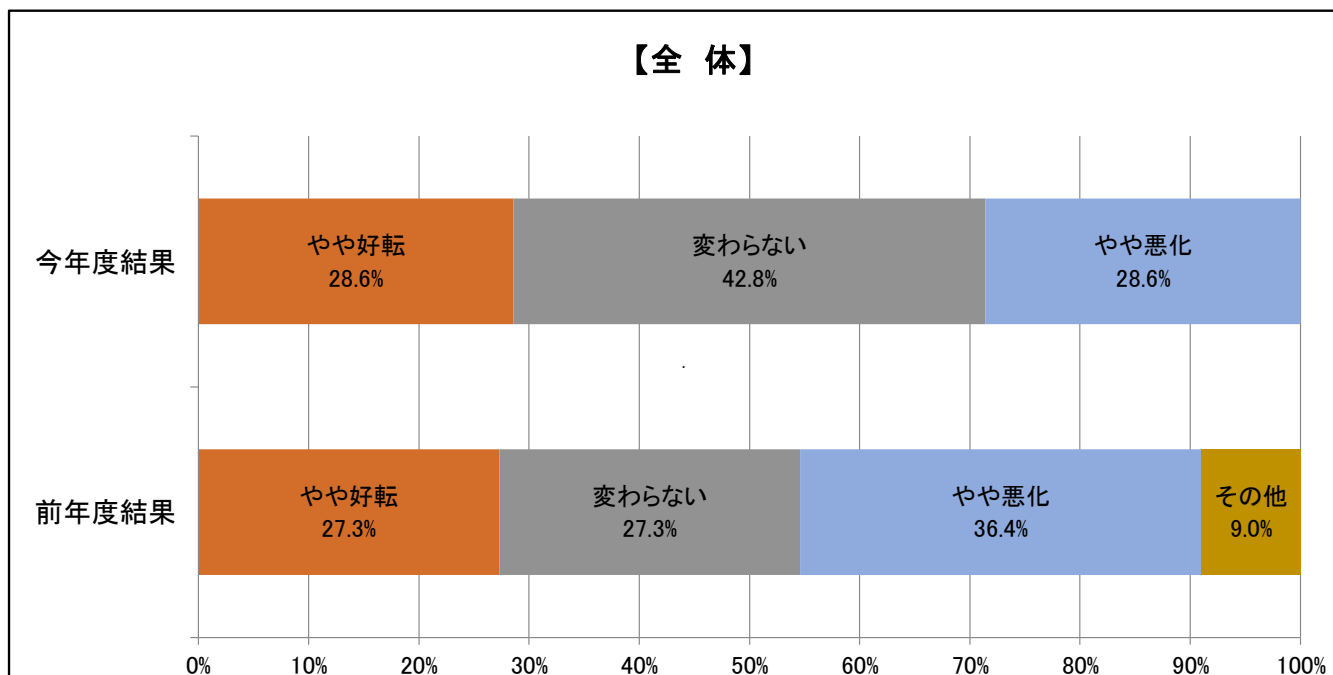


【役員・議員】は「変わらない」42.9%でトップ。【小規模企業】は「やや悪化」が44.7%でトップ。【役員・議員】は「やや悪化」+「かなり悪化」が42.8%とトップの「変わらない」とほぼ同じ割合の一方で、「かなり悪化」が28.6%となり、前年度の0.0%から大きく増加した。【小規模企業】は「やや悪化」+「かなり悪化」が51.1%と半数を超えた。

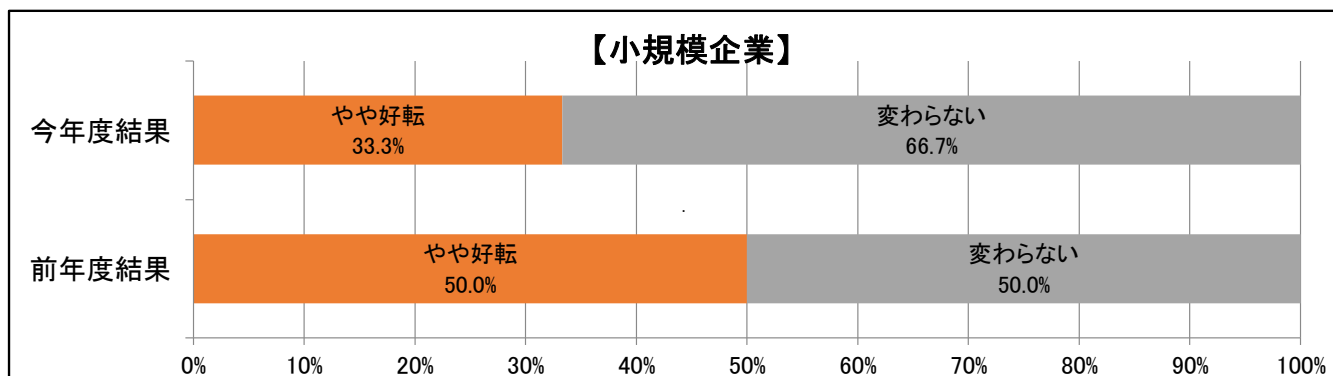
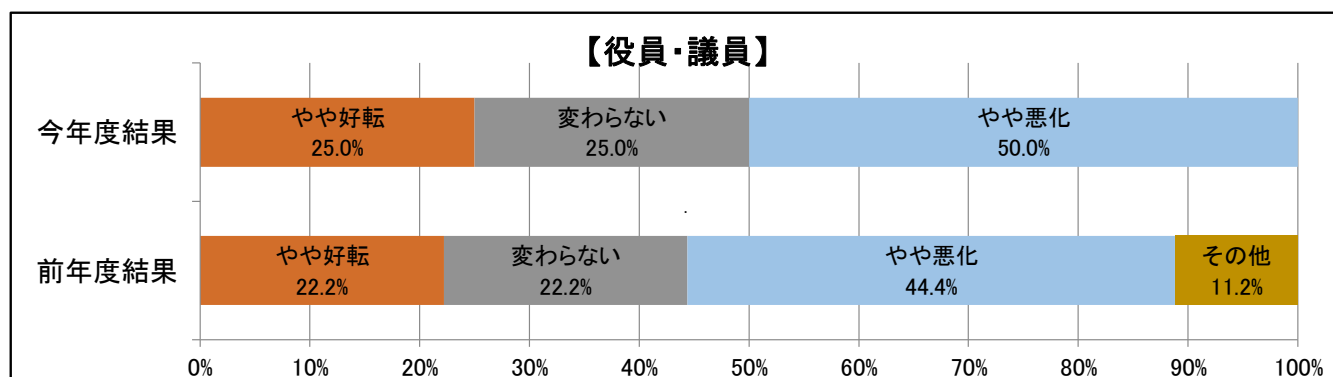
2020年 業況の見通し

※前年度より全ての業種についての業況見通しの回答から自社における業種の業況見通しについての回答に変更しております。

運輸・通信業



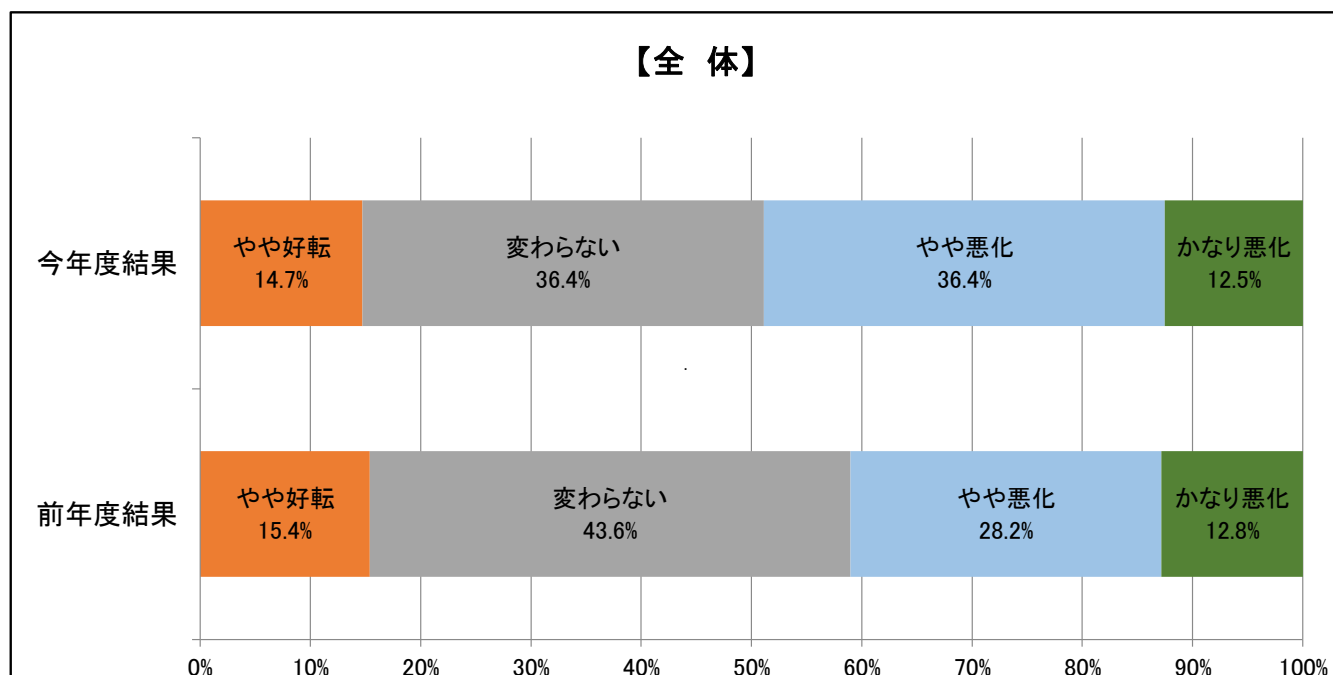
2020年の運輸・通信業の見通しについては、「変わらない」が42.8%(対前年比+15.5%)でトップとなった。次いで、「やや好転」と「やや悪化」がともに28.6%とそれぞれ1.3ポイント増加、7.8ポイント減少した。



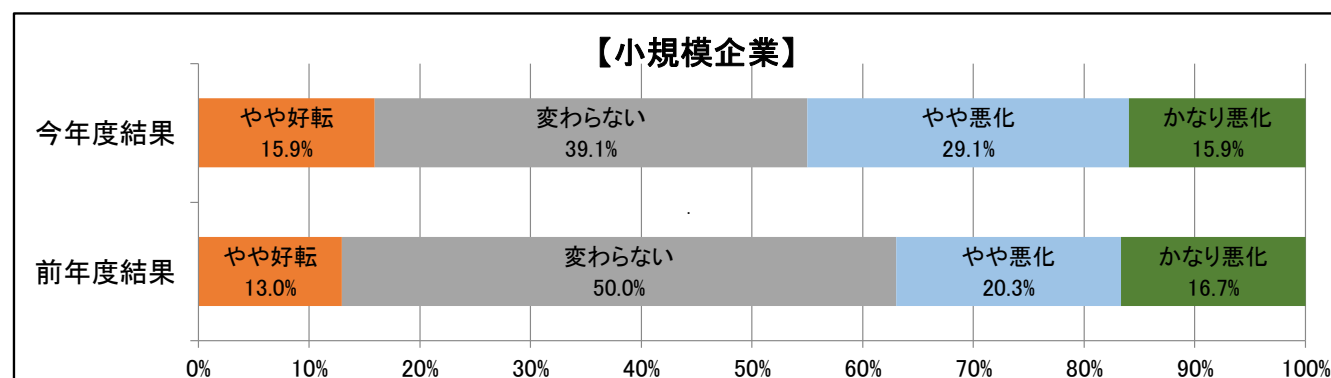
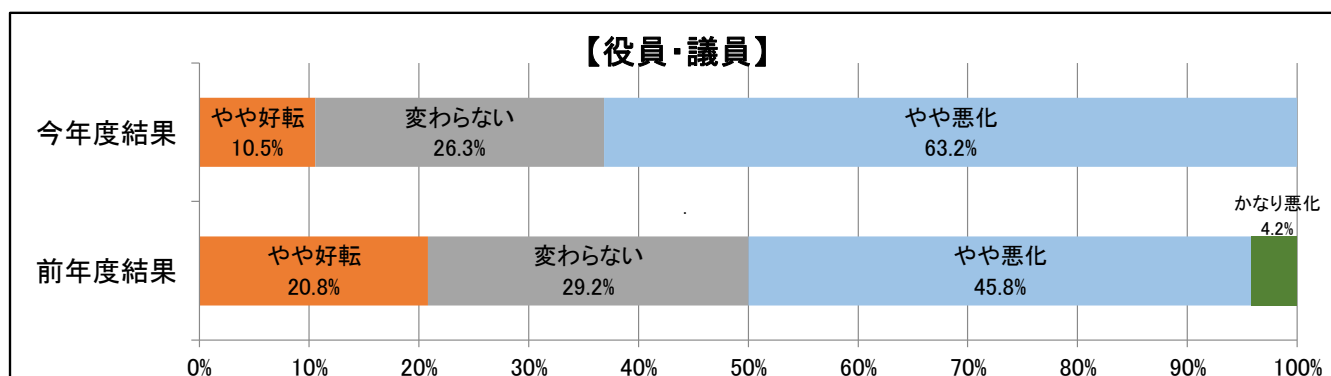
2020年 業況の見通し

※前年度より全ての業種についての業況見通しの回答から自社における業種の業況見通しについての回答に変更しております。

卸売・小売業



2020年の卸売・小売業の見通しについては、「変わらない」と「やや悪化」がともに36.4%でトップとなり、二分する結果となった。一方で「やや悪化」+「かなり悪化」が48.9%とほぼ半数を占めることから、厳しい見通しを示す結果となった。

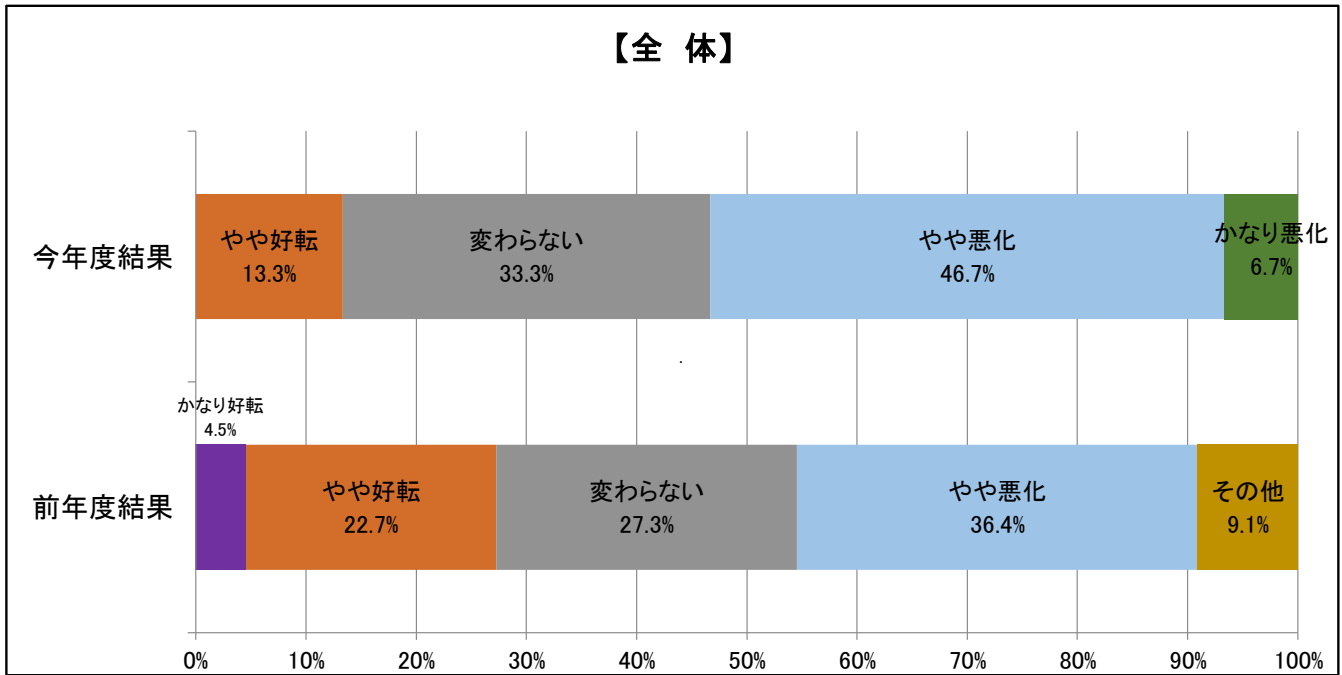


【役員・議員】における「やや悪化」+「かなり悪化」が63.7%と半数を超えた。これは【小規模企業】における「やや悪化」+「かなり悪化」である45.0%を上回っており、【役員・議員】の方がより厳しい見通しであることを示す結果となった。

2020年 業況の見通し

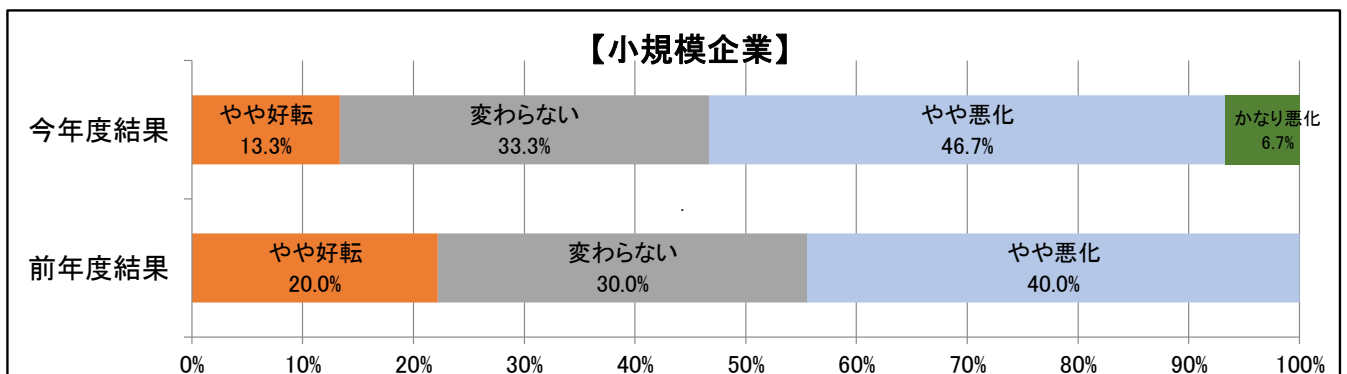
※前年度より全ての業種についての業況見通しの回答から自社における業種の業況見通しについての回答に変更しております。

飲食業



2020年の飲食業の見通しについては、2年連続で「やや悪化」が46.7%(対前年比+10.3%)でトップ。一方で「やや悪化」+「かなり悪化」が53.4%(対前年比+17.0%)と「悪化」の割合が半数を上回っていることから、厳しい見通しを示す結果となった。

※今年度結果については、【役員・議員】における回答数がゼロのため、全体の結果と小規模企業の結果が同じとなっています。

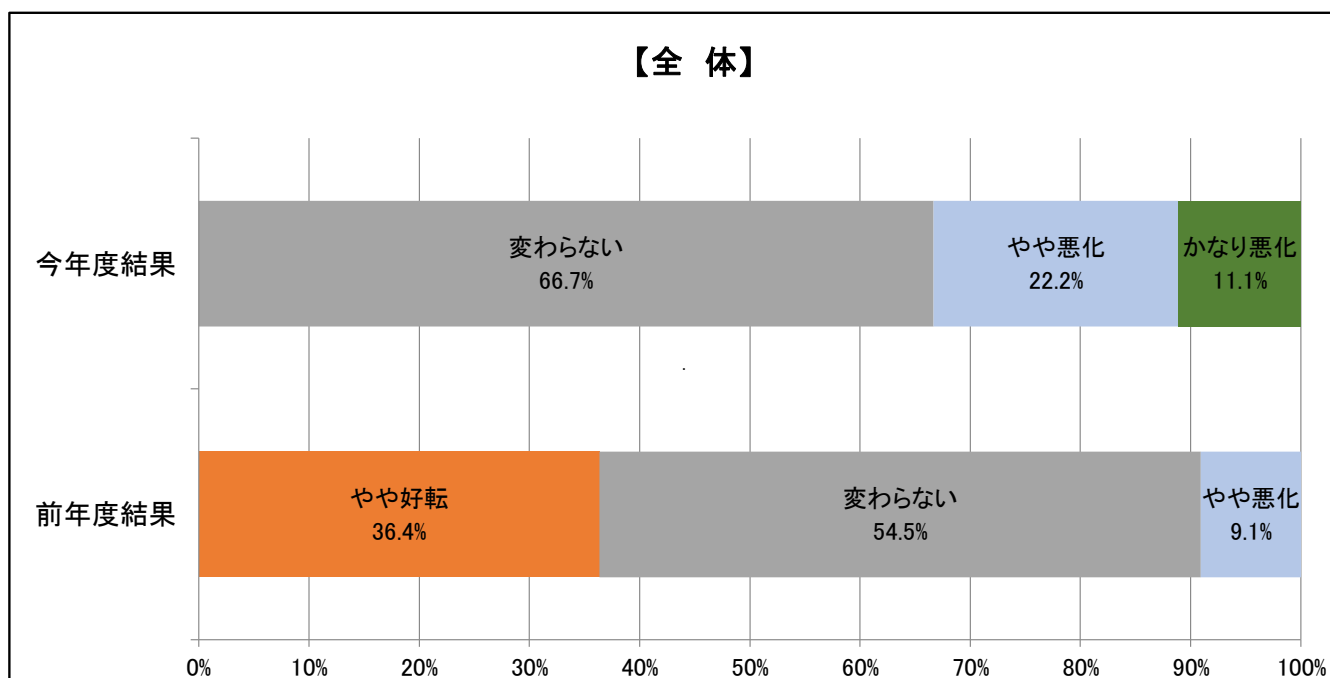


【小規模企業】は前年と同じく「やや悪化」が46.7%(対前年比+6.7%)でトップとなり、「やや悪化」と「かなり悪化」の合計である「悪化」割合についても53.4%(対前年比+13.4%)と半数を上回っており、厳しい見通しであることを示す結果となった。

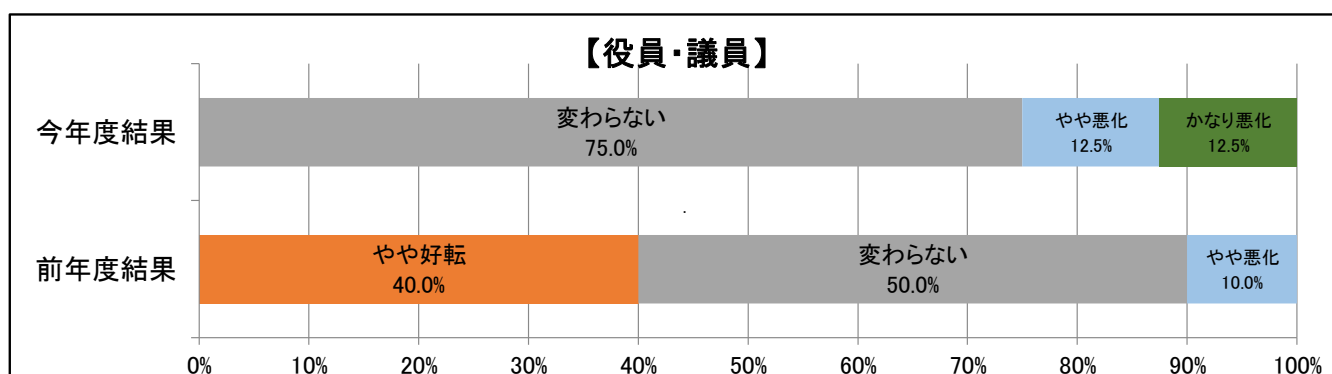
2020年 業況の見通し

※前年度より全ての業種についての業況見通しの回答から自社における業種の業況見通しについての回答に変更しております。

金融・保険業



2020年の金融・保険業の見通しについては、「変わらない」が66.7%(対前年比+12.2%)で前年に引き続きトップ。一方で「やや悪化」+「かなり悪化」が33.3%(対前年比+24.2%)と「悪化」の割合が大幅に増加し、厳しい見通しを示す結果となった。



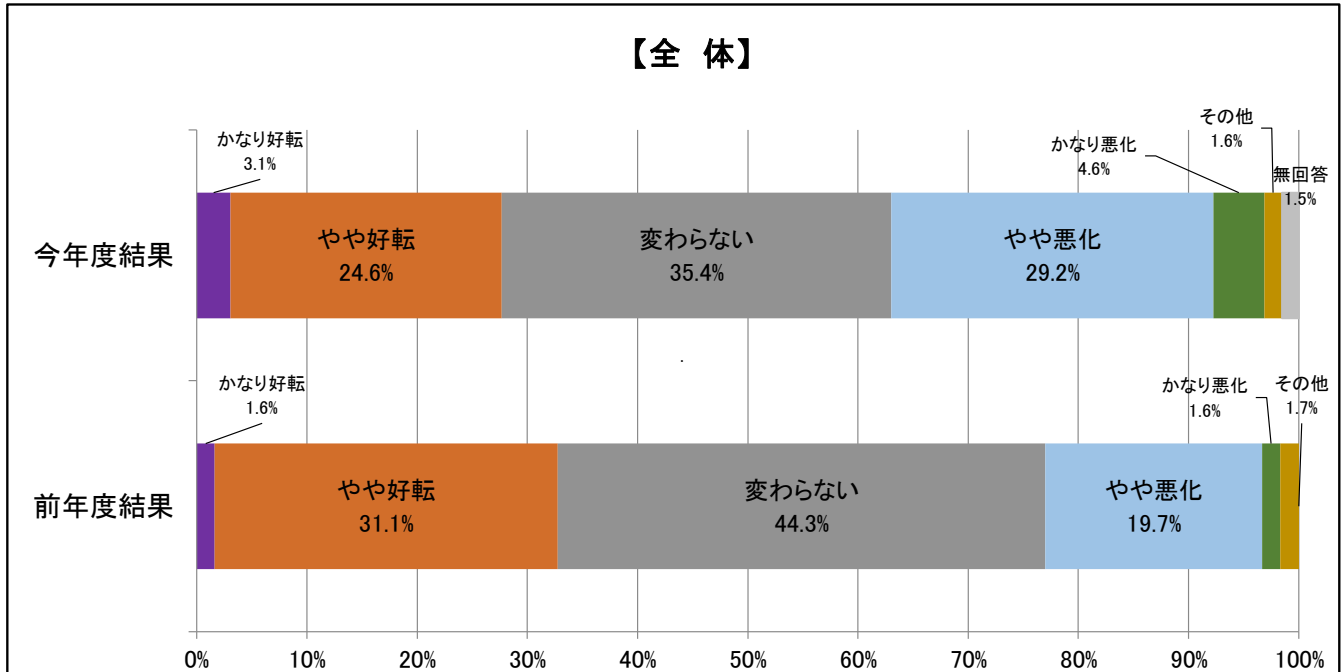
【役員・議員】は「変わらない」がトップの一方で、「やや悪化」+「かなり悪化」が25.0%(対前年比+15.0%)も大幅に増加し、厳しい見通しを示す結果となった。

※【小規模企業】については、回答率が0.4%と割合が小さいため、結果を省略しております。

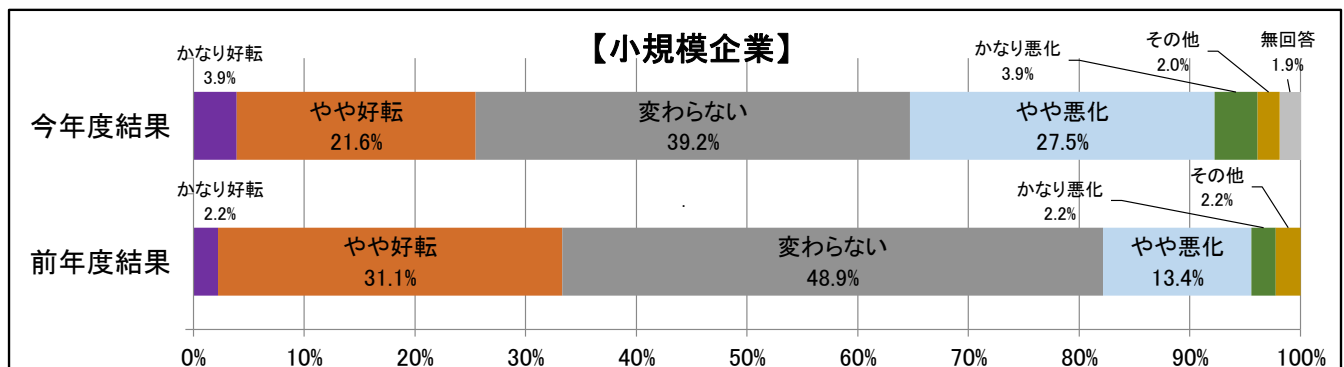
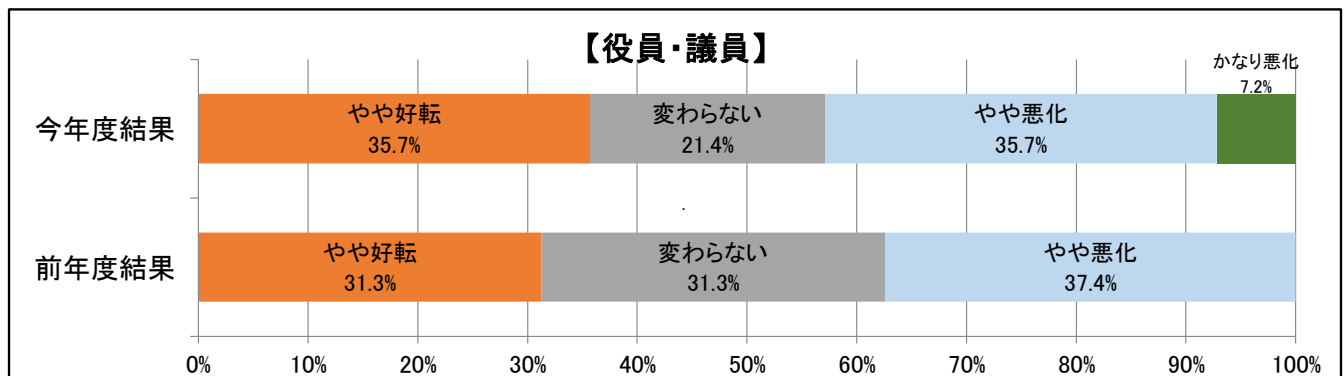
2020年 業況の見通し

※前年度より全ての業種についての業況見通しの回答から自社における業種の業況見通しについての回答に変更しております。

サービス業・不動産業



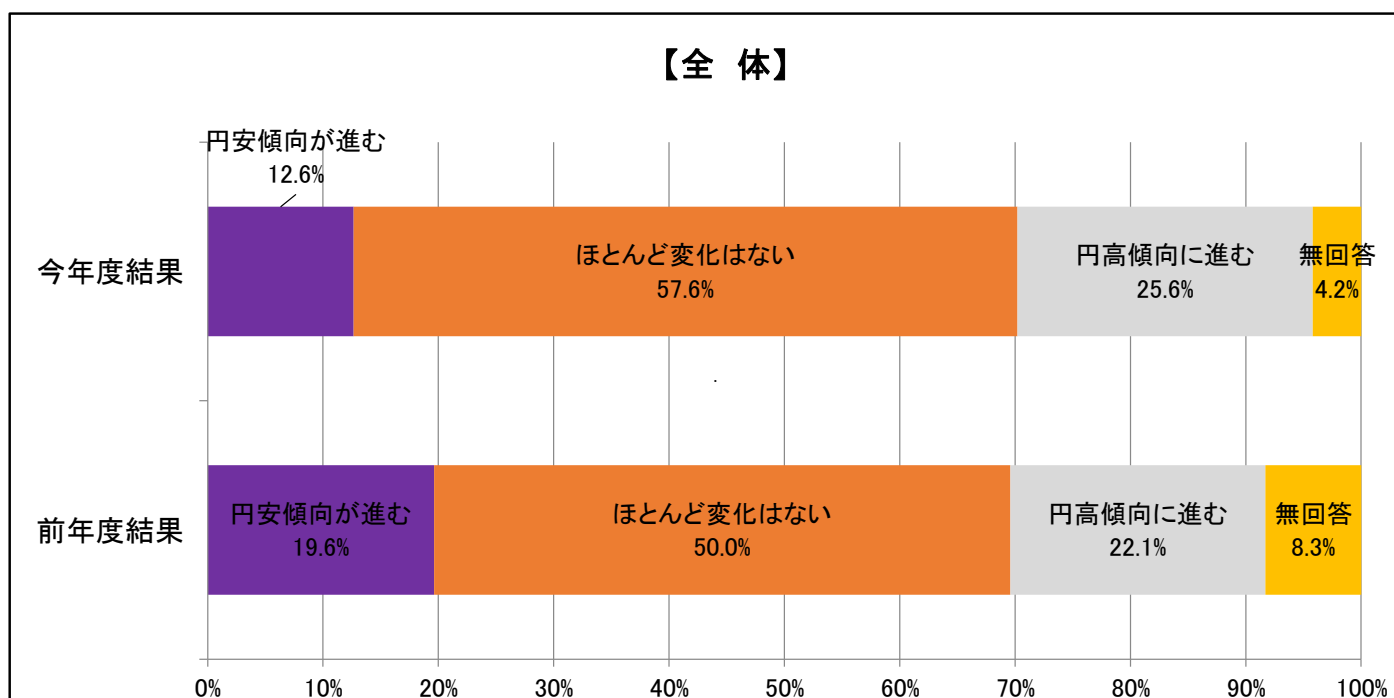
2020年のサービス業の見通しについては「変わらない」が35.4%(対前年比-8.9%)で前年に引き続きトップ。次いで「やや悪化」が29.2%(対前年比+9.5%)となり、「やや悪化」+「かなり悪化」が33.8%(対前年比+12.5%)と「悪化」の割合が大幅に増加し、厳しい見通しを示す結果となった。



【役員・議員】は「やや好転」と「やや悪化」がともに35.7%でトップとなり、見通しが二分する結果となった。
 【小規模企業】は「変わらない」が39.2%(対前年比-9.7%)でトップとなり、次いで「やや悪化」が27.5%(対前年比+14.1%)となり、企業規模における見通しが分かれる結果となった。

円市場予測

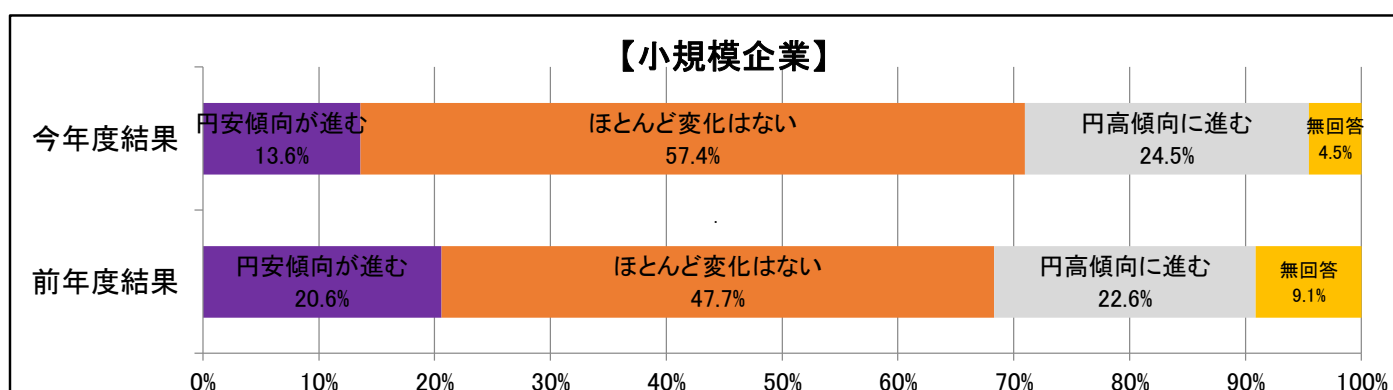
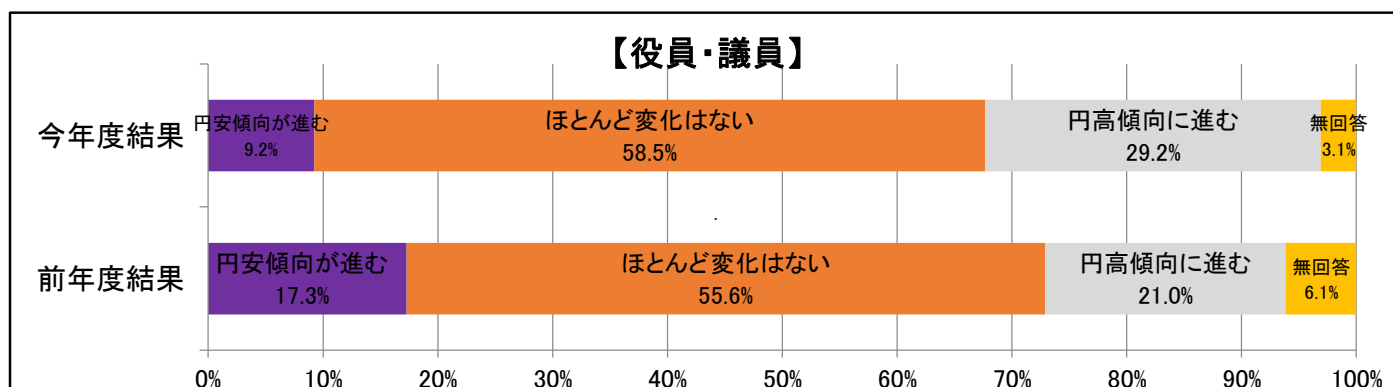
「ほとんど変化はない」が57.6%でトップ



円市場の推移予測は、「ほとんど変化はない」が57.6%(対前年比+7.6%)でトップとなり、次いで「円高傾向に進む」が25.6%(対前年比+3.5%)、「円安傾向に進む」が12.6%(対前年比-7.0%)と続き、円市場の推移については、前年度結果と同じく現状が維持されるとの見方が強い結果となった。

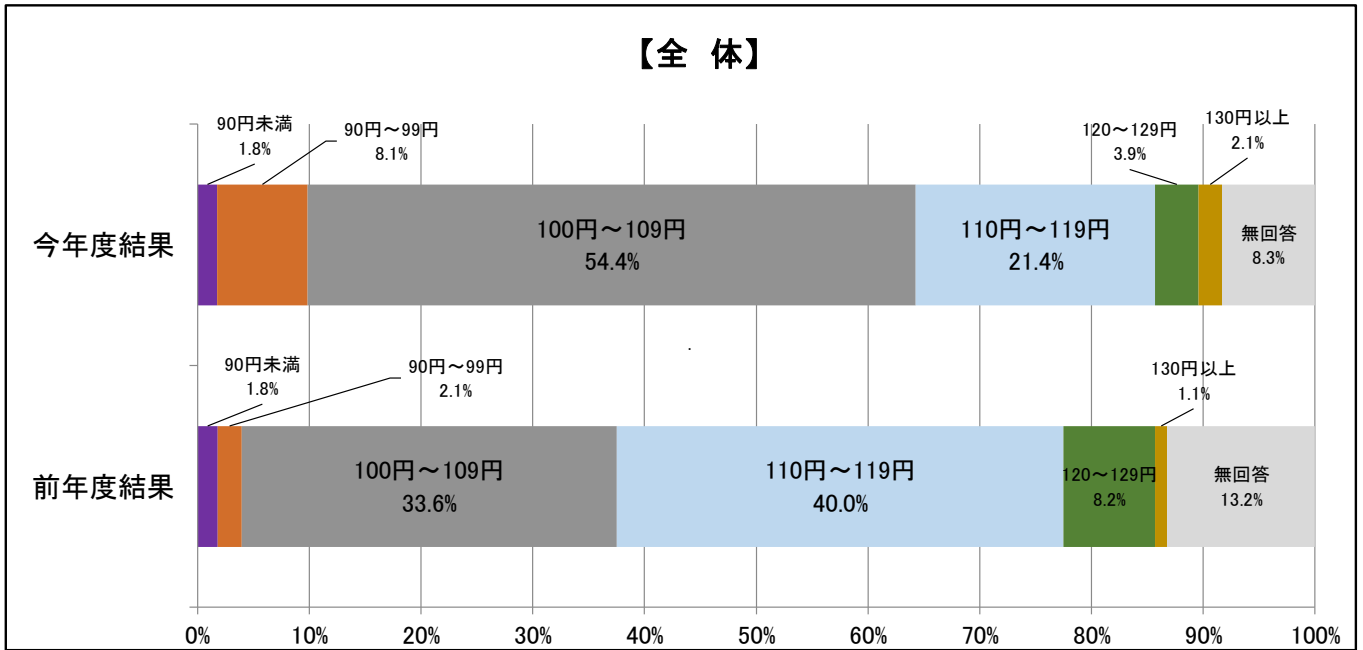
規模別の円市場予測

【役員・議員】、【小規模企業】ともに「ほとんど変化はない」がトップ



望ましい為替水準

「100円～109円」が54.4%でトップ、次いで「110円～119円」で21.4%

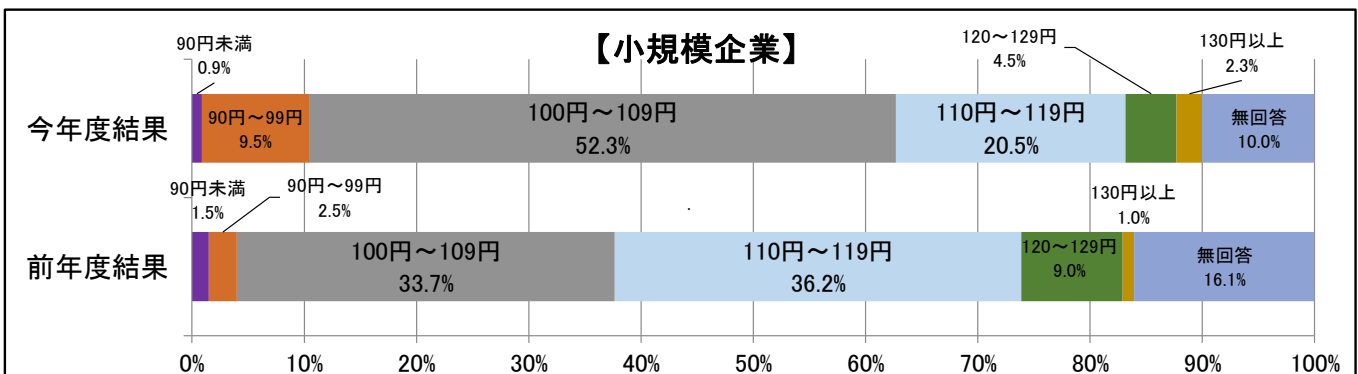
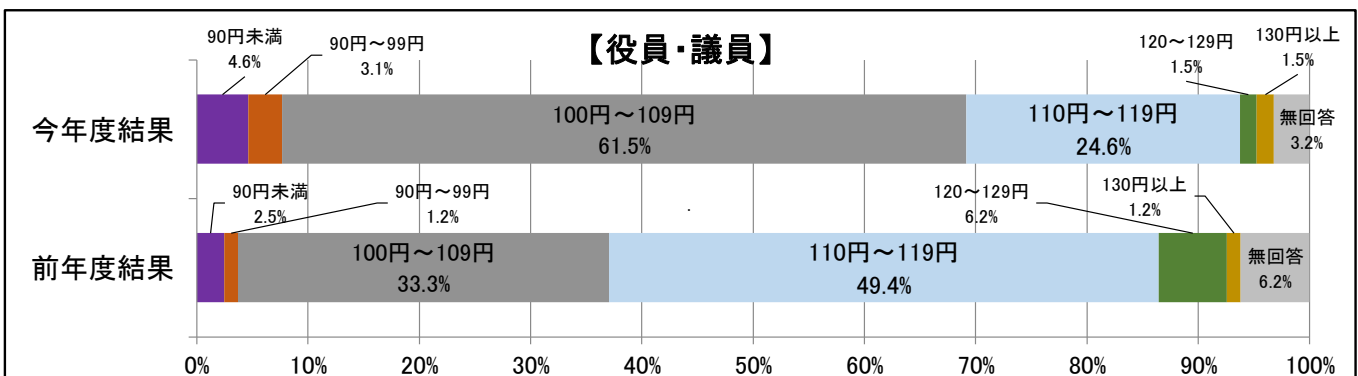


調査票記載の参考為替 東京外国為替 円(1ドル=円) (11月13日)
 [始値] 108.98 [高値] 109.14 [安値] 108.64 [終値] 108.81

企業にとって望ましい為替水準は、「100～109円」が54.4%(対前年比+20.8%)でトップ。次いで「110～119円」が21.4%(対前年比-18.6%)となり、前年とトップが入れ替わる結果となった。

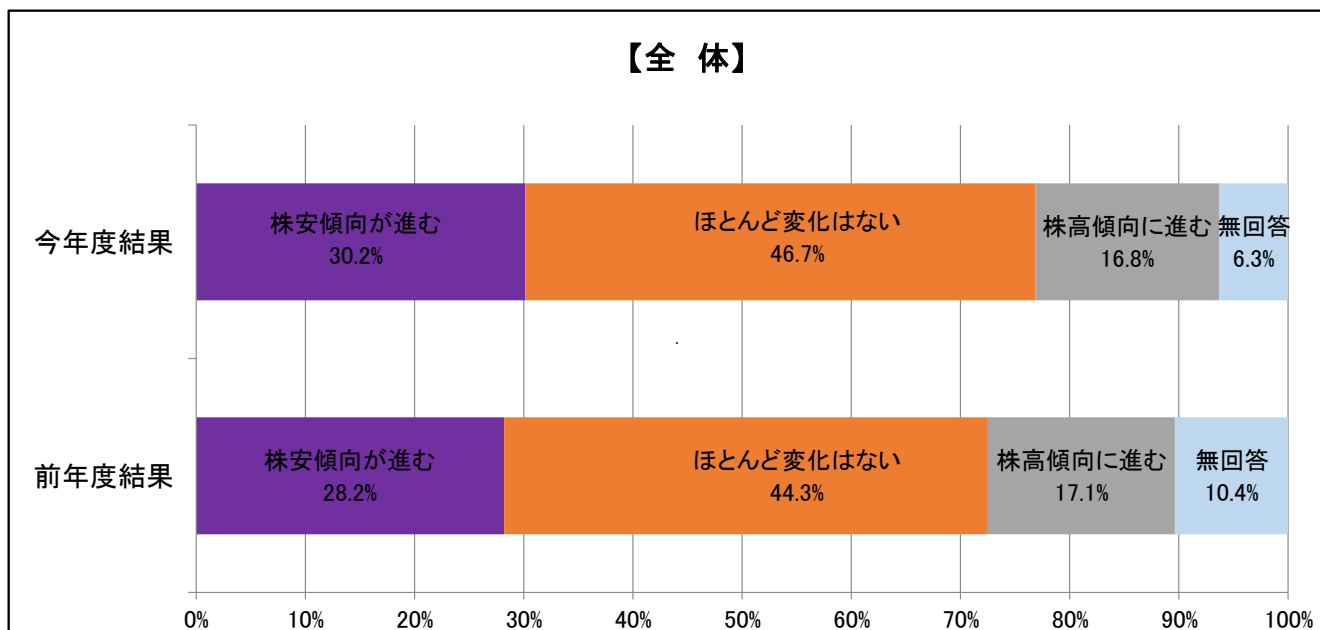
規模別の望ましい為替水準

【役員・議員】、【小規模企業】ともに「100～109円」がトップ



株式市場予測

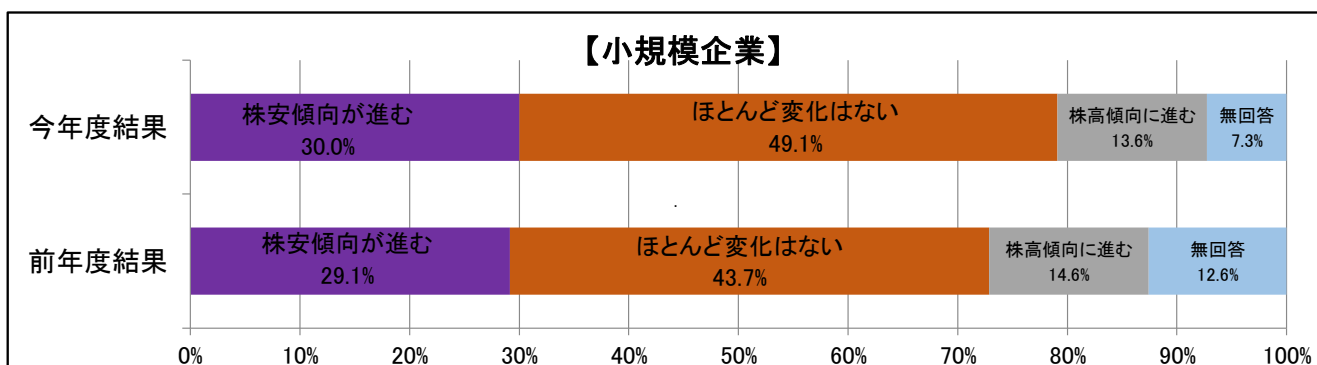
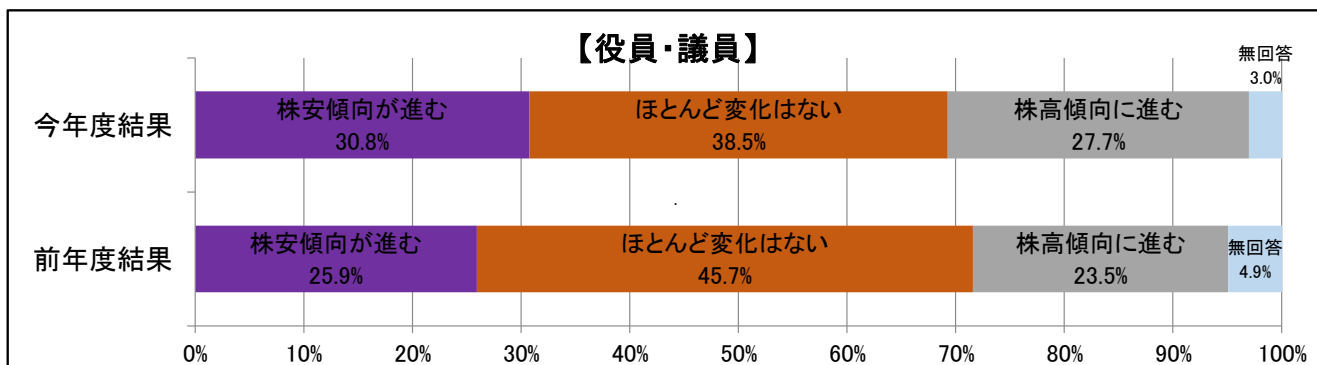
「ほとんど変化はない」が46.7%でトップ、次いで「株安傾向が進む」が30.2%



株式市場の予測は、「ほとんど変化はない」が46.7%(対前年比+2.4%)でトップとなった。次いで「株安傾向が進む」は30.2%(対前年比+2.0%)、「株高傾向に進む」は16.8%(対前年比-0.3%)、と前年度と同じ順位となった。

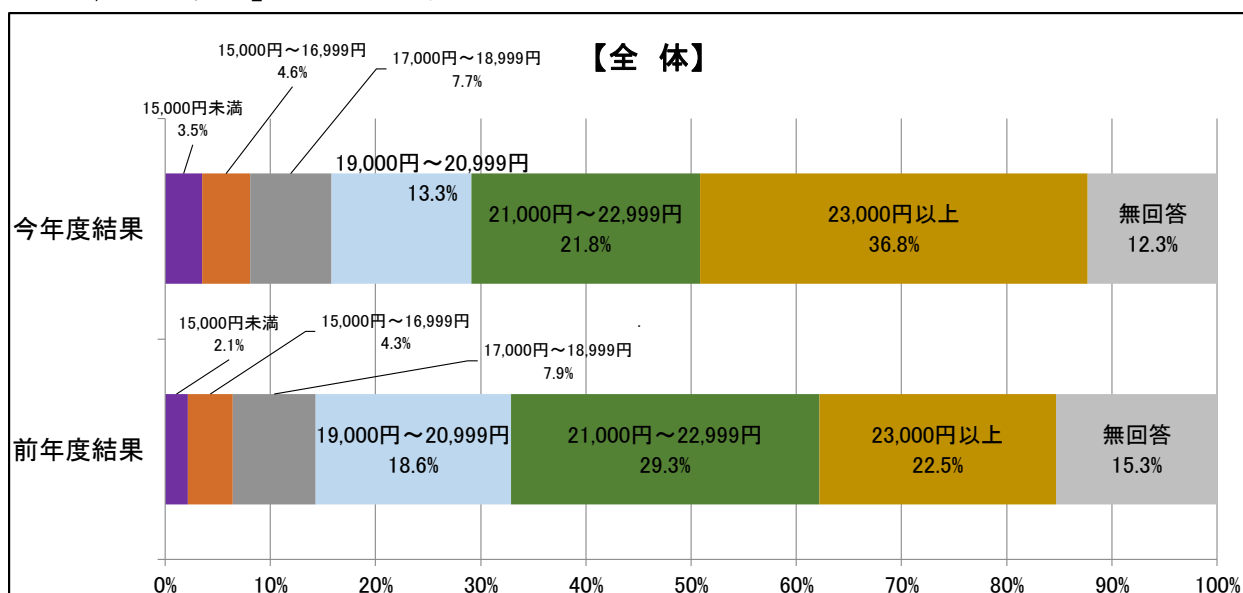
規模別の株式市場予測

【役員・議員】、【小規模企業】ともに「ほとんど変化はない」がトップ



望ましい株価水準

「23,000円以上」が36.8%でトップ

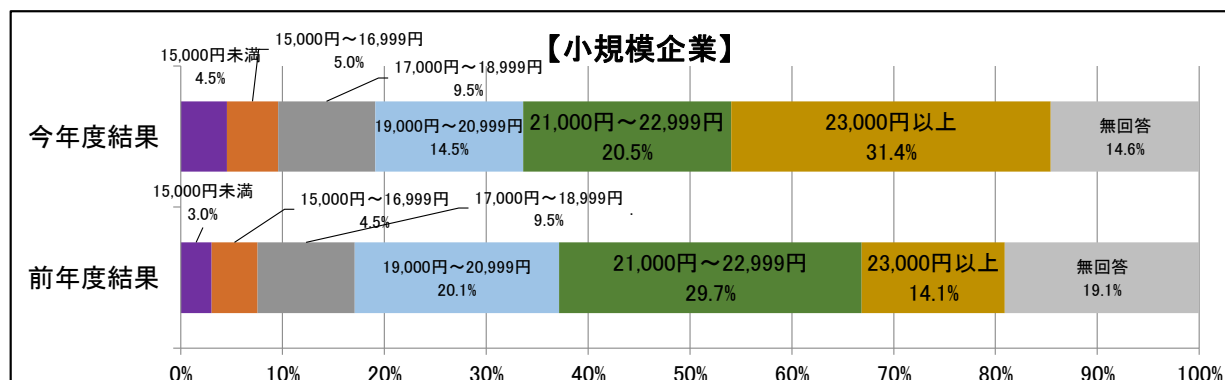
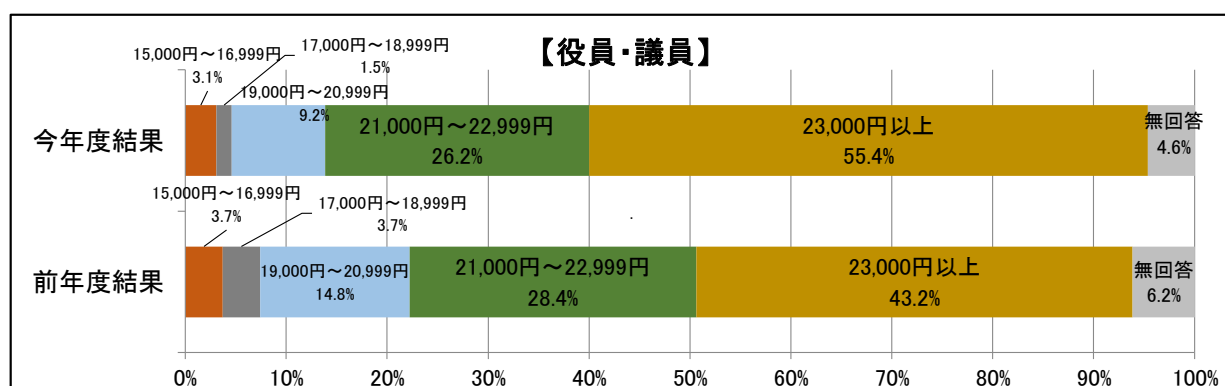


調査票記載の参考株価 国内株式 日経平均(円) (11月12日)
 [始値] 22,127.7 [高値] 22,324.01 [安値] 22,046.29 [終値] 22,269.88

望ましい株価水準は、「23,000円以上」が36.8%(対前年比+14.3%)と大きく数字を伸ばしトップ。次いで「21,000円～22,999円」が21.8%(対前年比-7.5%)と順位が入れ替わり、前年以上に株高傾向を望む声が多い結果となった。

規模別の望ましい株価水準

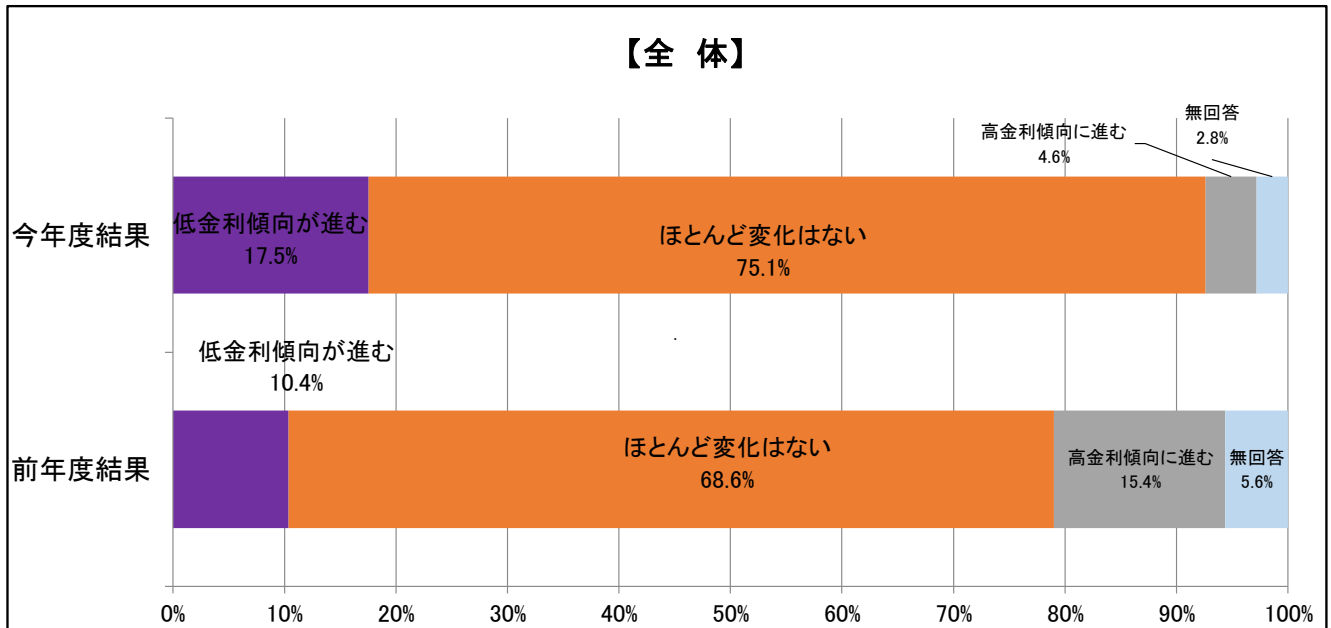
【役員・議員】、【小規模企業】ともに「23,000円以上」がトップ



【役員・議員】、【小規模企業】ともに「23,000円以上」がそれぞれ55.4%(対前年比+12.2%)、31.4%(対前年比+17.3%)とそれぞれ大幅にアップし、トップとなった。次いで「21,000円～22,999円」がそれぞれ26.2%(対前年比-2.2%)、20.5%(対前年比-9.2%)と同じ順位となり、企業規模に関わらず同じ予測を示す結果となった。

金利予測

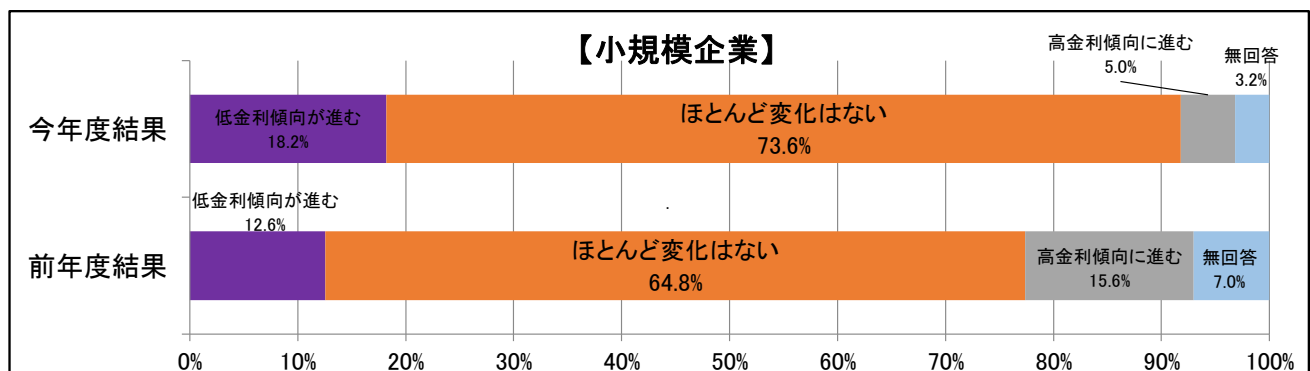
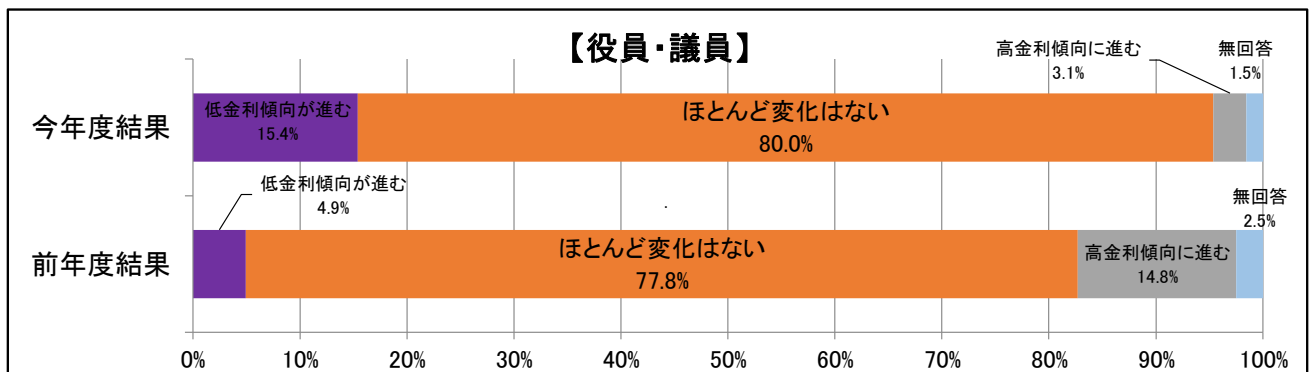
「ほとんど変化はない」が75.1%、「低金利傾向が進む」が17.5%で高金利傾向の予測は大幅に減少



金利の推移予測では、「ほとんど変化はない」が75.1%(対前年比+6.5%)で前年に続きトップ。次いで「低金利傾向が進む」が17.5%(対前年比+7.1%)、「高金利傾向に進む」が4.6%(対前年比-10.8%)となり、2位が前年と入れ替わる結果となった。

規模別の金利予測

【役員・議員】、【小規模企業】ともに「ほとんど変化はない」がトップ



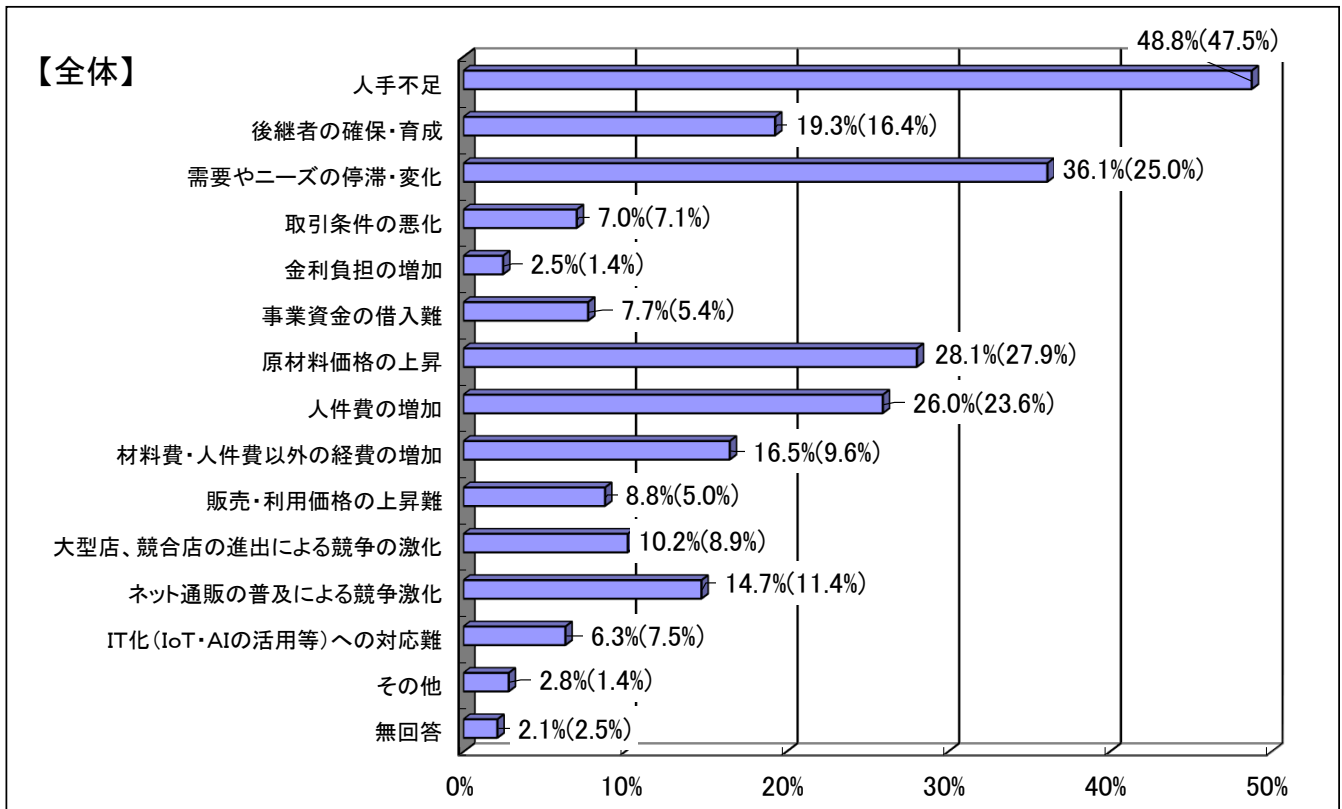
【役員・議員】、【小規模企業】ともに「ほとんど変化はない」がトップで、それぞれ80.0%、73.6%と半数を超えている。次いで「低金利傾向が進む」、「高金利傾向に進む」と続き、前年と同様に企業規模に関わらず予測が一致する結果となった。

経営上の問題点

(複数回答)

※グラフの()内は、前年数値です。

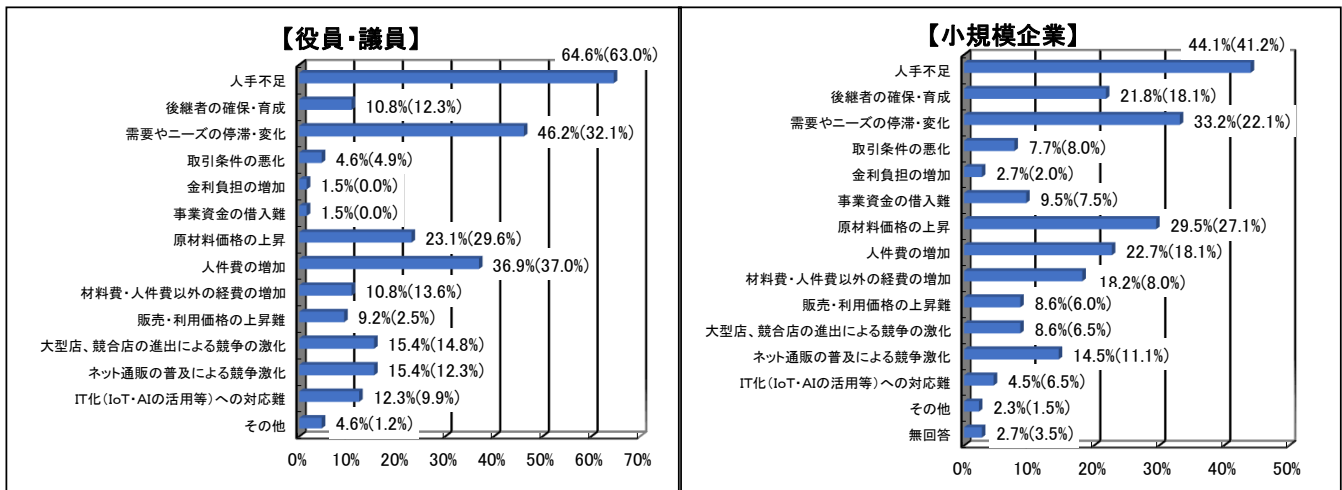
トップは昨年に続き「人手不足」、次いで「需要やニーズの停滞・変化」



経営上の問題点として最も多かったのは、前年と同様「人手不足」が48.8%(対前年比+1.3%)でトップ。次いで「需要やニーズの停滞・変化」が36.1%(対前年比+11.1%)となり、長期化する人手不足の深刻さと今年10月からの消費税増税等による消費者の需要停滞やニーズの変化等への対応難によるものと思われる。

規模別の経営上の問題点

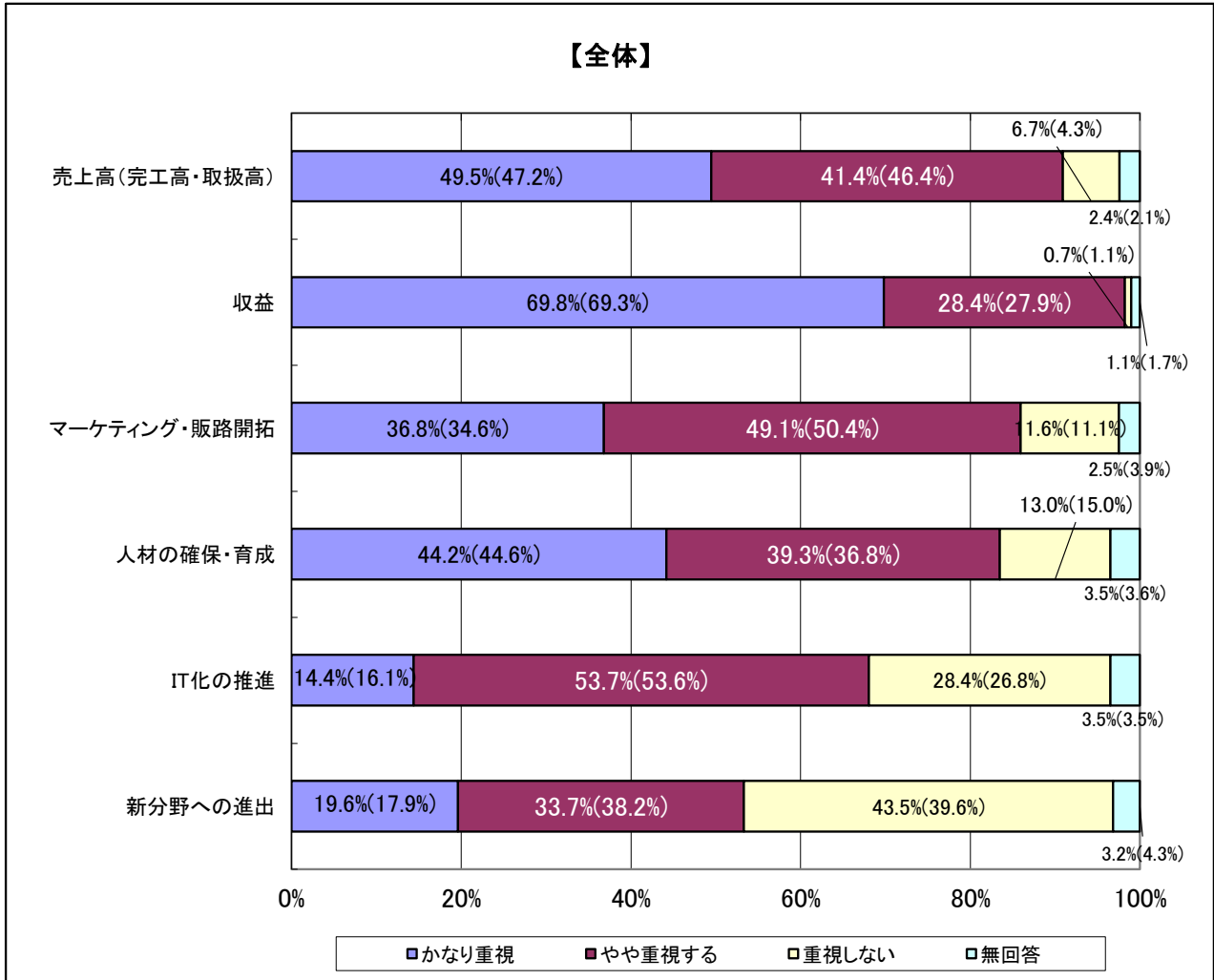
【役員・議員】、【小規模企業】ともに「人手不足」がトップ



【役員・議員】、【小規模企業】ともに「人手不足」がそれぞれ64.6%(対前年比+1.6%)、44.1%(対前年比+2.9%)でトップとなった。次いで2位となった「需要やニーズの停滞・変化」においても、【役員・議員】、【小規模企業】ともにそれぞれ46.2%(対前年比+14.1%)、33.2%(対前年比+11.1%)と大幅に増加しており、企業規模に関わらず、今年10月からの消費税増税等による需要の停滞や消費者ニーズの変化への対応難について不安視している事業者が増加したことを示す結果となった。

経営上の重視点

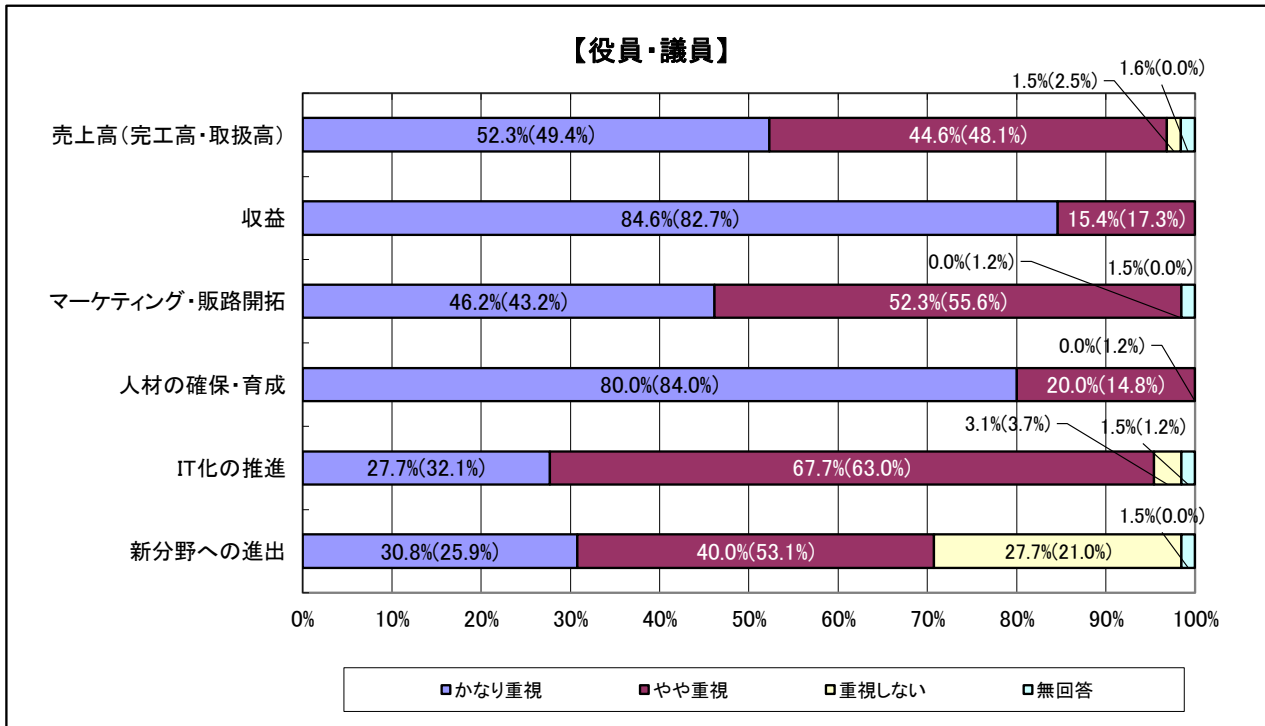
※グラフの()内は、前年数値です。



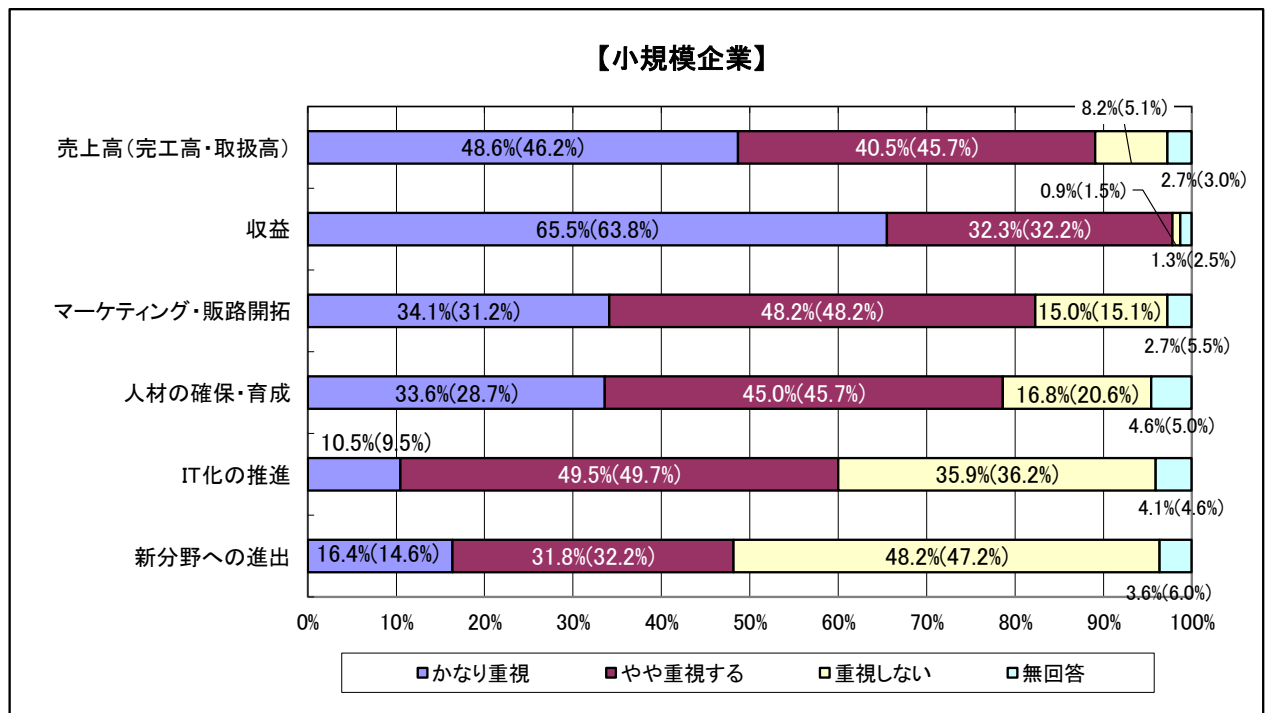
「(かなり+やや)重視する」割合が高いのは「収益」で98.2%(対前年比+1.0%)、次いで「売上高」が90.9%(対前年比-2.7%)、「マーケティング・販路開拓」で85.9%(対前年比+0.9%)となり、前年同様の順位となった。

規模別の経営上の重視点

※グラフの()内は、前年数値です。



「(かなり+やや)重視する」が最も高いのは「収益」(対前年比+0.0%)「人材の確保・育成」(対前年比+1.2%)でも100%となり、【役員・議員】のすべての企業で「収益」と同じく「人材の確保・育成」を重視している結果となった。次いで「マーケティング・販路開拓」98.5%(対前年比-0.3%)、その他「売上高」、「IT化の推進」の項目で9割を超えた。

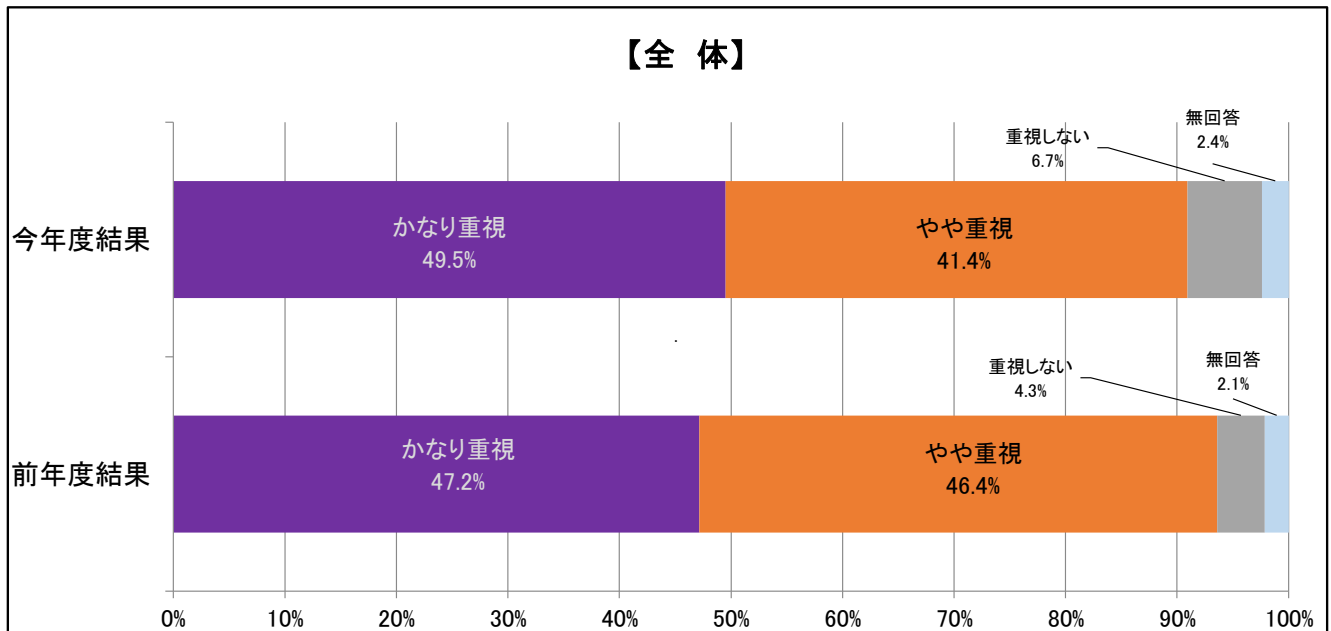


「(かなり+やや)重視する」割合が最も高いのは「収益」で97.8%(対前年比+1.8%)。次いで、「売上高」で89.1%(対前年比-2.8%)。また、「マーケティング・販路開拓」で82.3%(対前年比+2.9%)、「人材の確保・育成」で78.6%(対前年比+4.2%)、「IT化の推進」で60.0%(対前年比+0.8%)となり、いずれも前年より増加した。

経営上の重視点

※グラフの()内は、前年数値です。

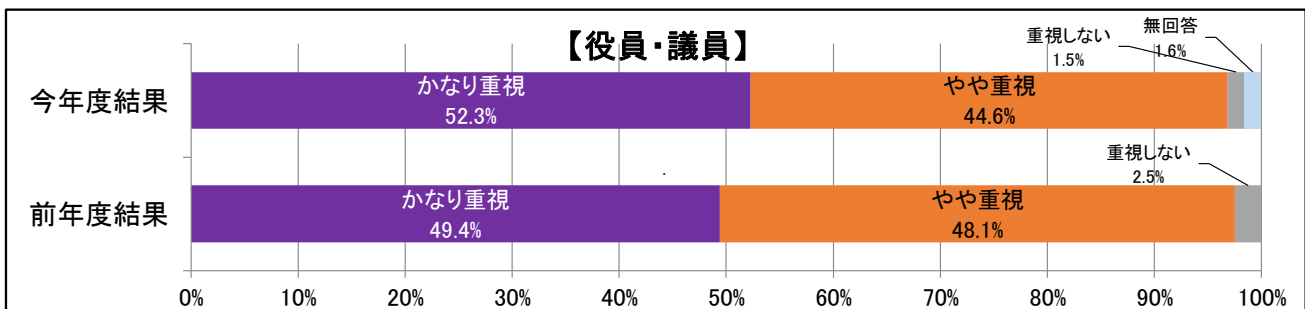
＜売上高＞ トップは「かなり重視」 49.5%



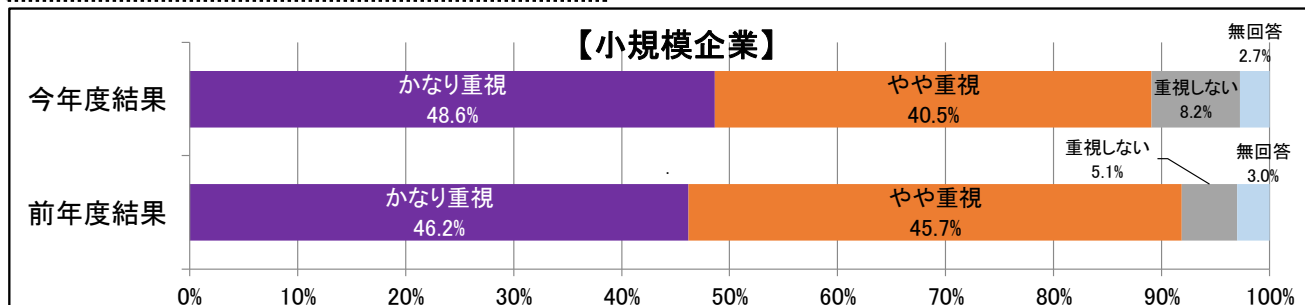
売上高については「かなり重視」が49.5%(対前年比+2.3%)、「やや重視」が41.4%(対前年比-5.0%)となり、前年同様順位が同じ結果となった。

規模別の経営上の重視点

＜売上高＞ トップは「かなり重視」 52.3%



＜売上高＞ トップは「かなり重視」 48.6%

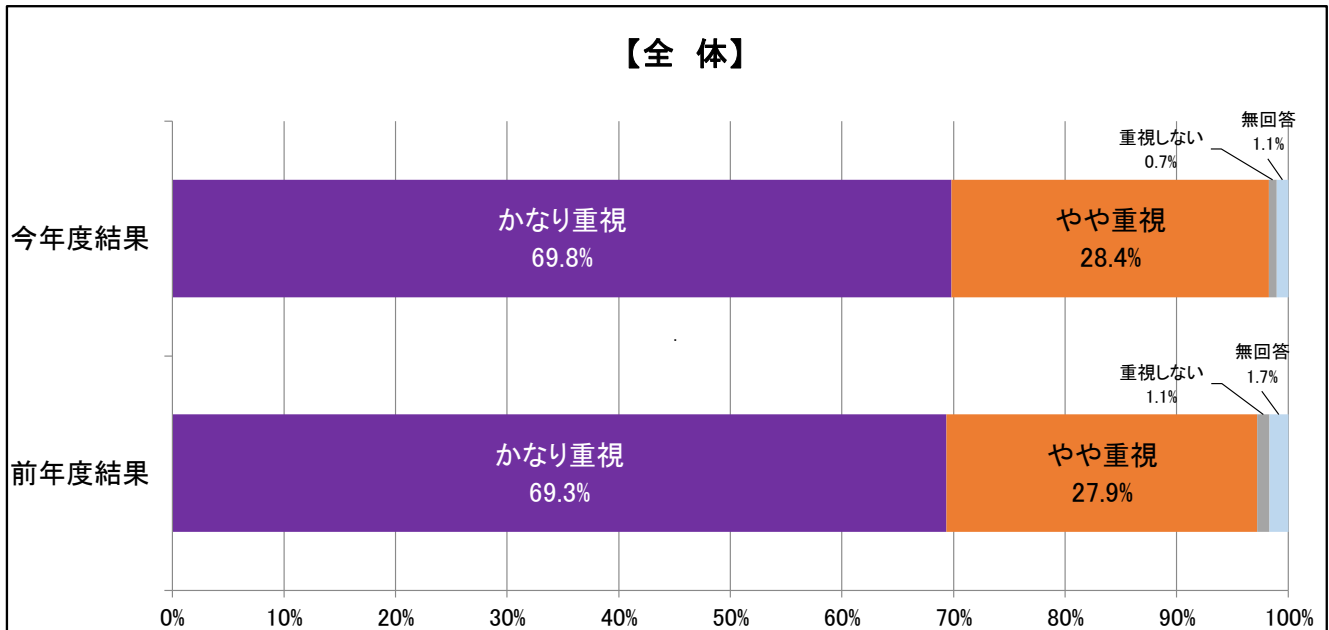


「かなり重視」が【役員議員】で52.3%(対前年比+2.9%)、【小規模企業】で48.6%(対前年比+2.4%)と前年に続き、企業規模に関わらず増加となった。

経営上の重視点

※グラフの()内は、前年数値です。

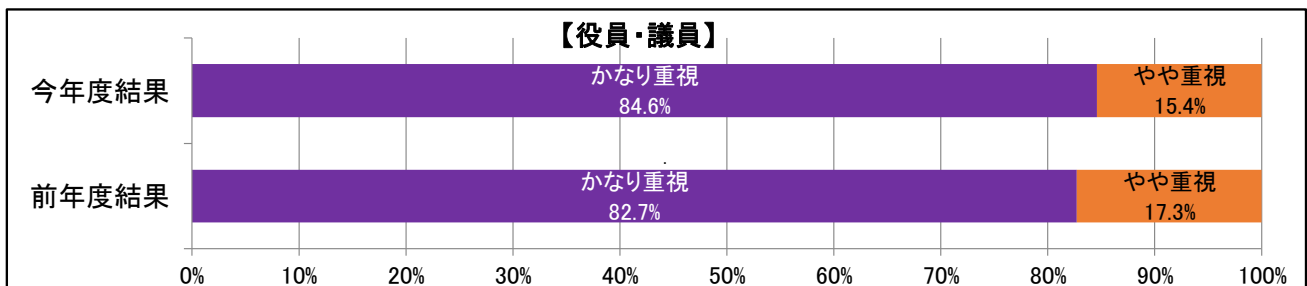
<収益> トップは「かなり重視」 69.8%



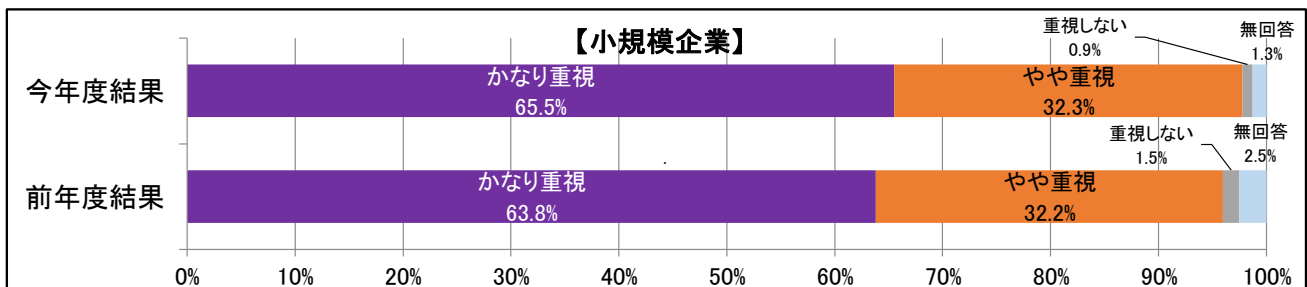
「かなり重視」が69.8%(対前年比+0.5%)でトップ。「やや重視」が28.4%(対前年比+0.5%)で、「重視する」が98.2%となり、対前年比+1.0%となった。

規模別の経営上の重視点

<収益> トップは「かなり重視」 84.6%



<収益> トップは「かなり重視」 65.5%

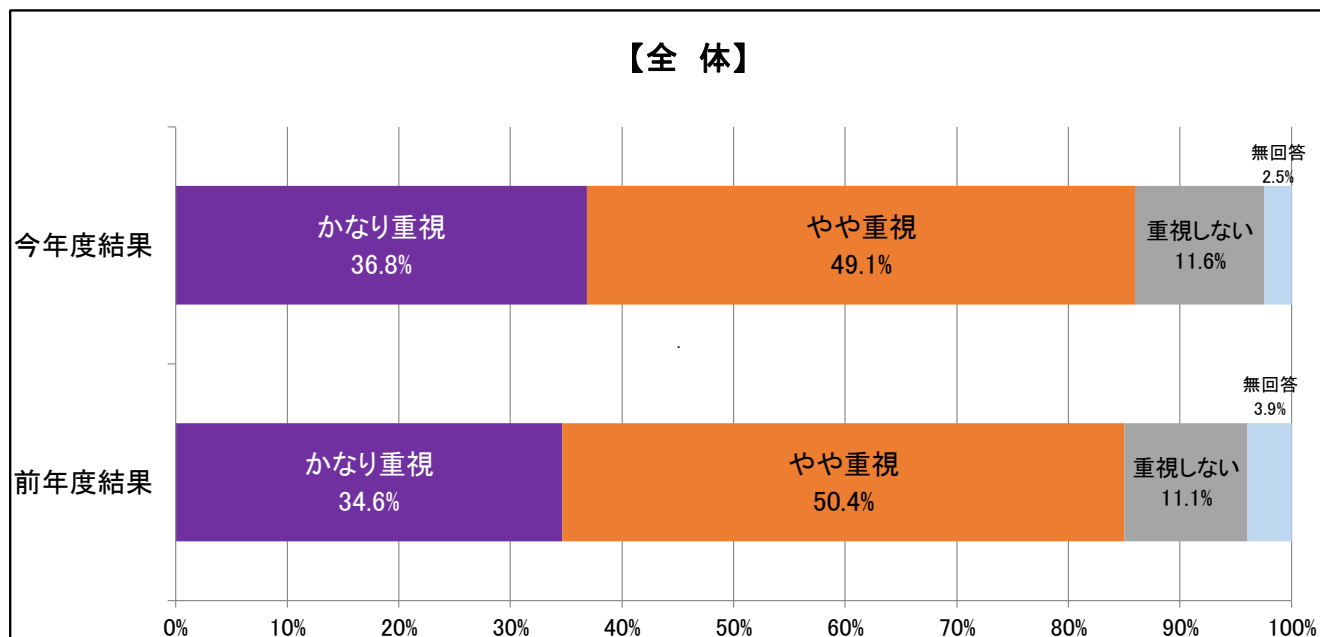


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「重視」がそれぞれ2年連続100.0%(対前年比+0.0%)、97.8%(対前年比+1.8%)と高い割合を占めている。特に【役員・議員】では「かなり重視」が84.6%と、【小規模企業】に比べ19.1%高くなっている。

経営上の重視点

※グラフの()内は、前年数値です。

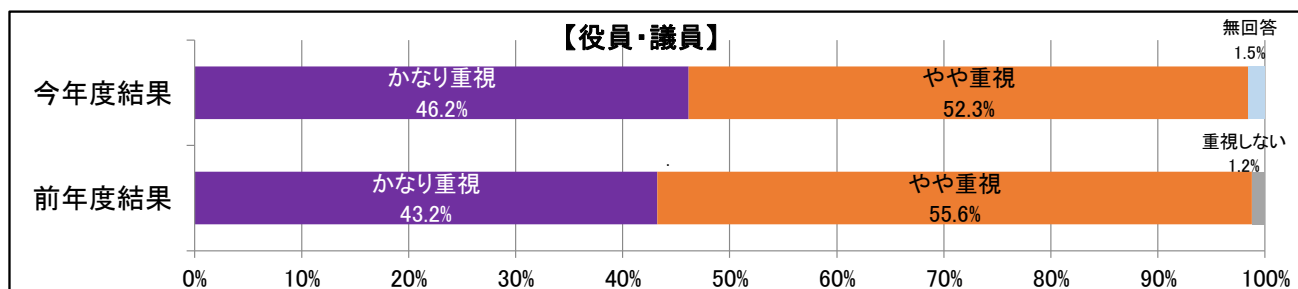
<マーケティング・販路開拓> トップは「やや重視」 49.1%



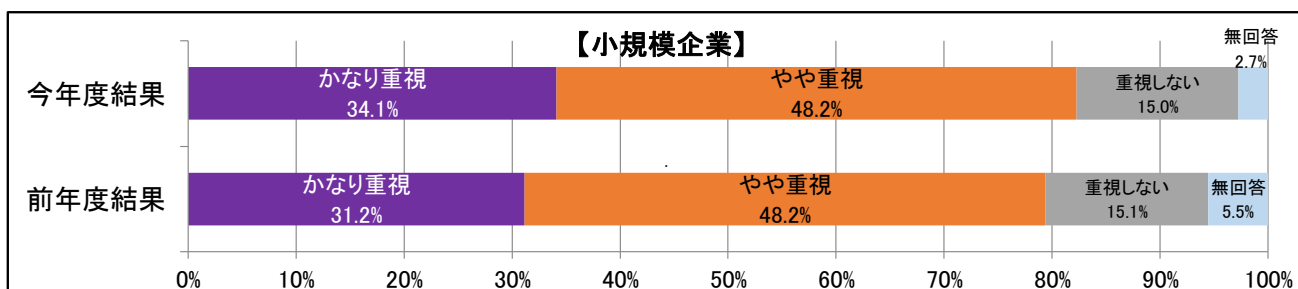
「やや重視」が49.1%(対前年比-1.3%)でトップ、次いで「かなり重視」が36.8%(対前年比+2.2%)、「重視しない」が11.6%(対前年比+0.5%)。前年に続き「重視」という回答の割合がやや増加した。

規模別の経営上の重視点

<マーケティング・販路開拓> トップは「やや重視」 52.3%



<マーケティング・販路開拓> トップは「やや重視」 48.2%

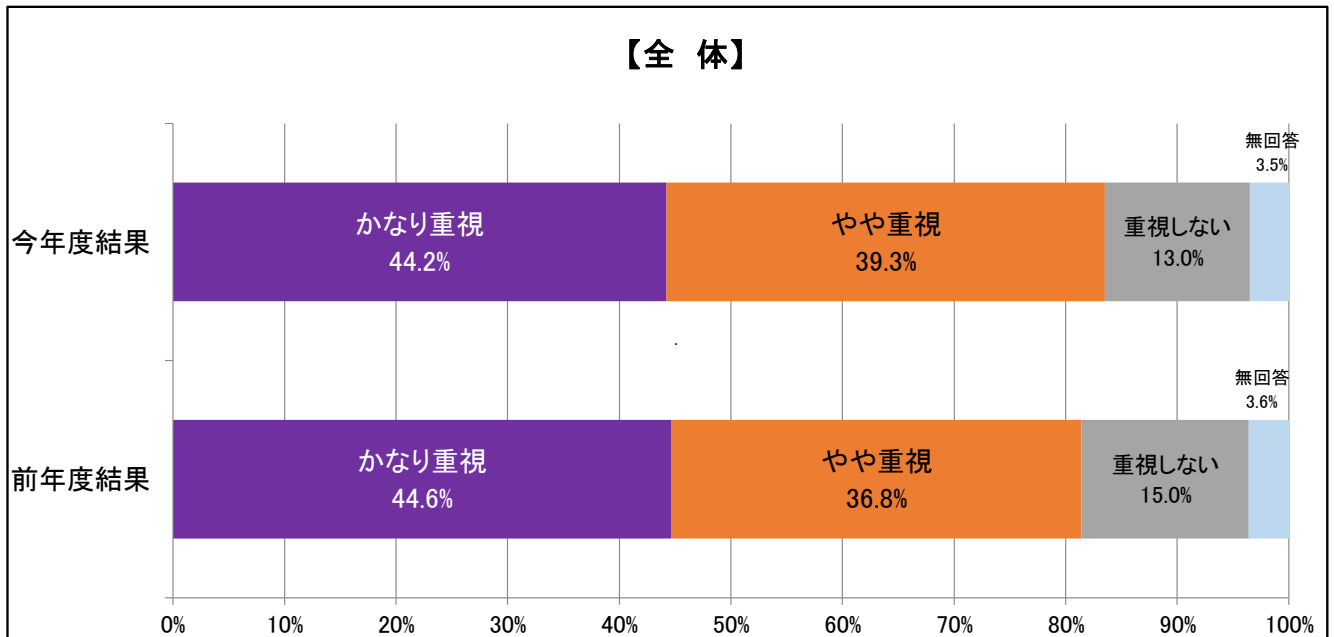


【役員・議員】、【小規模企業】ともに「やや重視」がそれぞれ52.3%(対前年比-3.3%)、48.2%(対前年比+0.0%)がトップ。【役員・議員】では、「かなり重視」が46.2%(対前年比+3.0%)となり「(かなり+やや)重視」が前年に続き9割を超えた。一方、【小規模企業】では「かなり重視」が34.1%(対前年比+2.9%)となり、「(かなり+やや)重視」は8割を超えた。

経営上の重視点

※グラフの()内は、前年数値です。

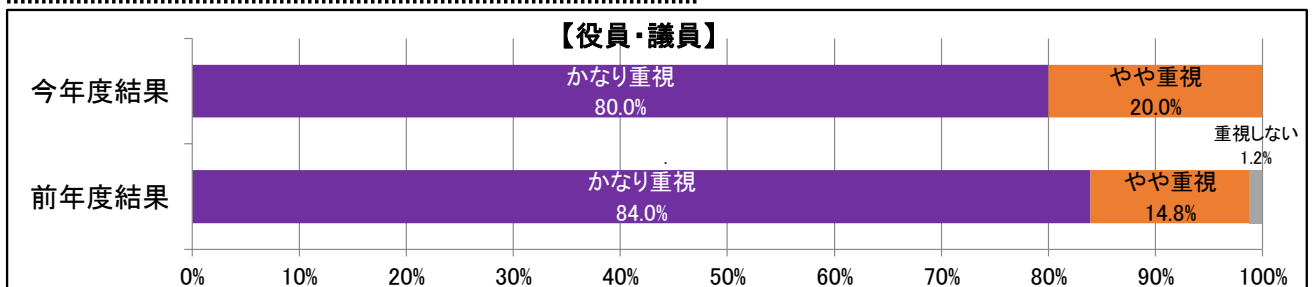
＜人材の確保・育成＞ トップは「かなり重視」44.2%



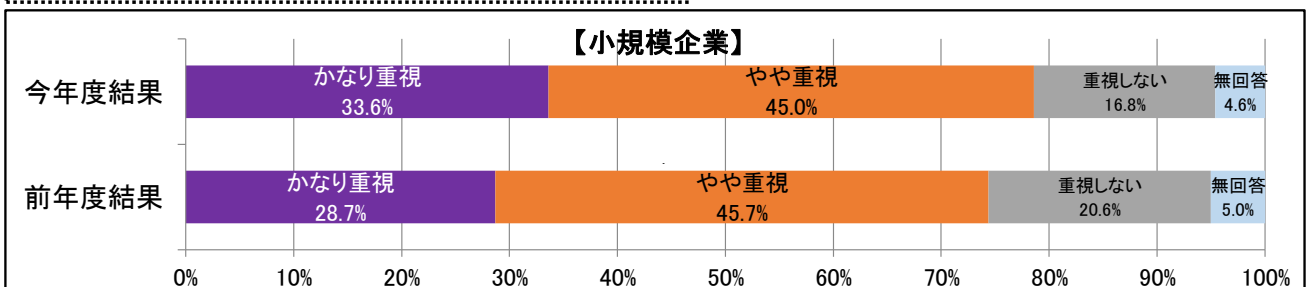
「かなり重視」が44.2%(対前年比-0.4%)でトップ。次いで、「やや重視」が39.3%(対前年比+2.5%)と、前年に続き「重視」という回答の割合が増加した。

規模別の経営上の重視点

＜人材の確保・育成＞ トップは「かなり重視」80.0%



＜人材の確保・育成＞ トップは「やや重視」45.0%

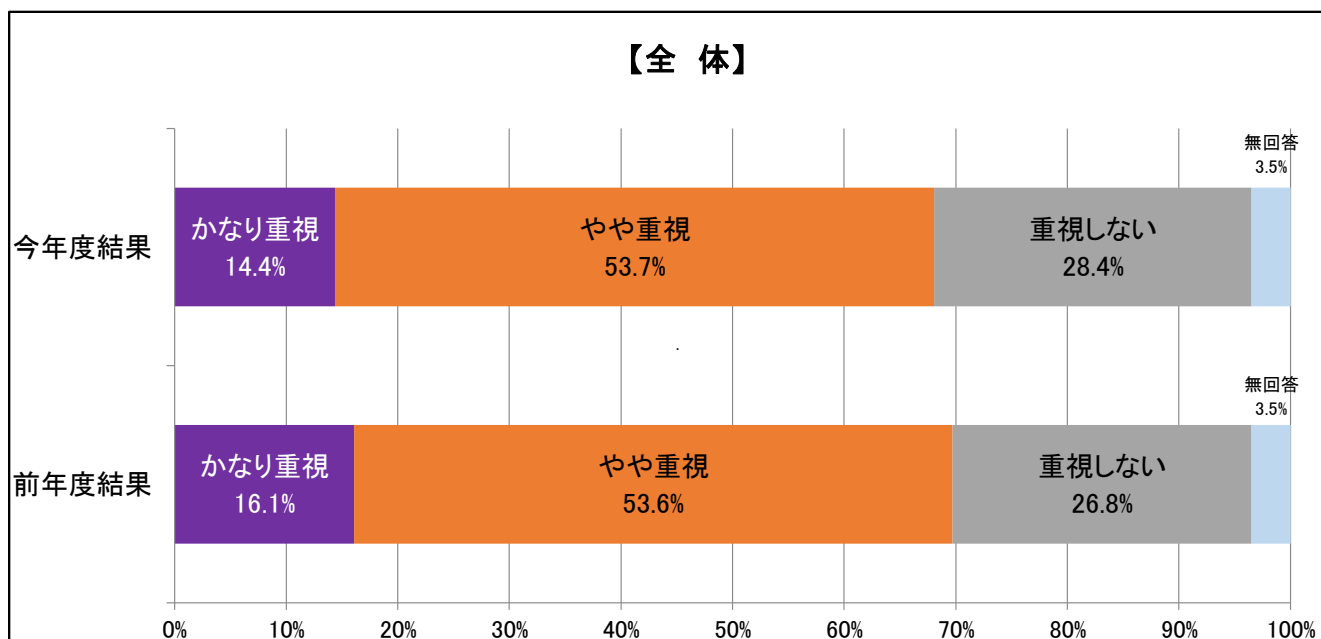


【役員・議員】では「(かなり+やや)重視する」が100.0%(対前年比+1.2%)、【小規模企業】では「(かなり+やや)重視する」が78.6%(対前年比+4.2%)と、いずれも「重視」の割合が増加しており、人手不足問題が背景にあるものと思われる。

経営上の重視点

※グラフの()内は、前年数値です。

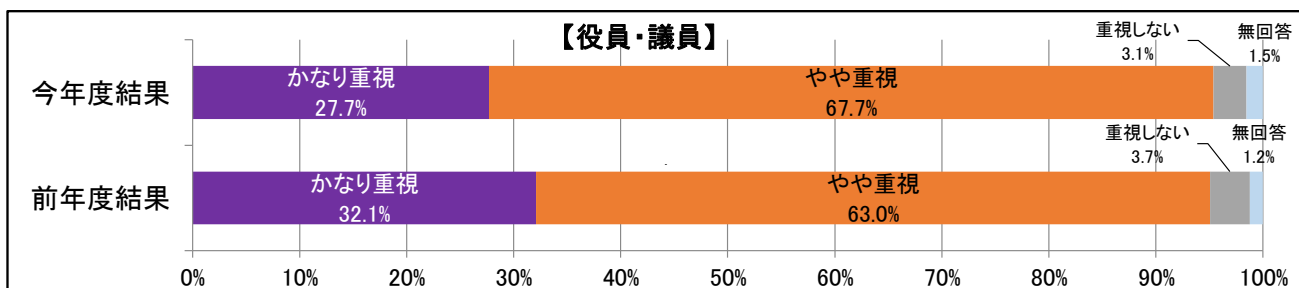
<IT化の推進> トップは「やや重視」 53.7%



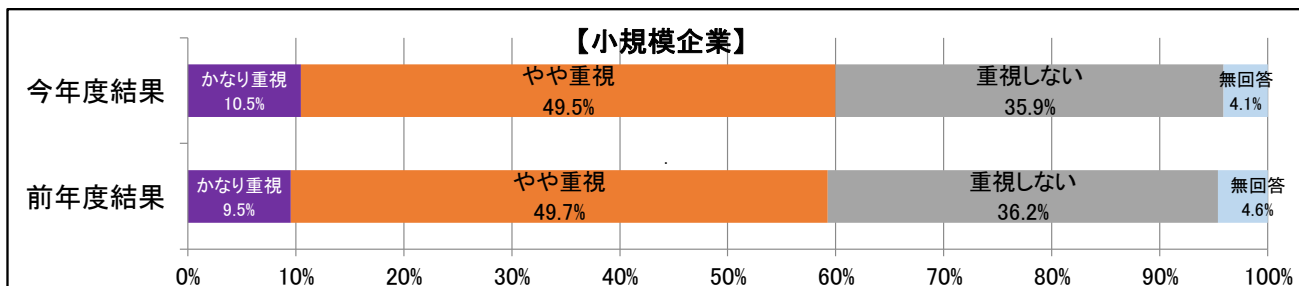
トップは「やや重視」で53.7%(対前年比+0.1%)、次いで「重視しない」が28.4%(対前年比+1.6%)。「かなり重視」は14.4%(対前年比-1.7%)となり、前年との比較において、わずかに「重視」が減少する結果となった。

規模別の経営上の重視点

<IT化の推進> トップは「やや重視」 67.7%



<IT化の推進> トップは「やや重視」 49.5%

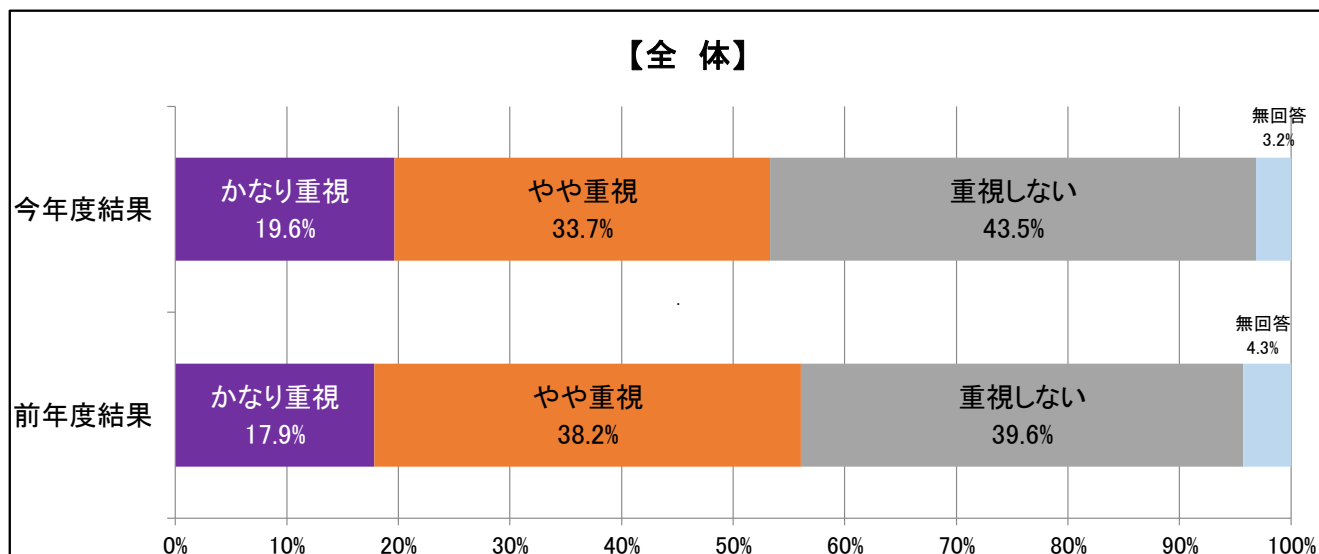


「(かなり+やや)重視する」の割合は【役員・議員】が95.4%(対前年比+0.3%)であるのに対し、【小規模企業】は60.0%(対前年比+0.8%)で、その差は35.4%と前回調査の35.9%との差とはわずかに縮小しているものの、未だ大きな開きがある。

経営上の重視点

※グラフの()内は、前年数値です。

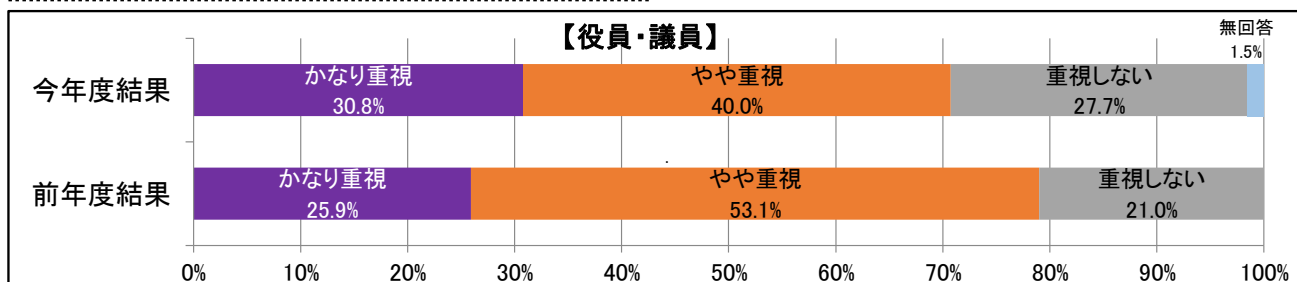
＜新分野への進出＞ トップは「重視しない」43.5%



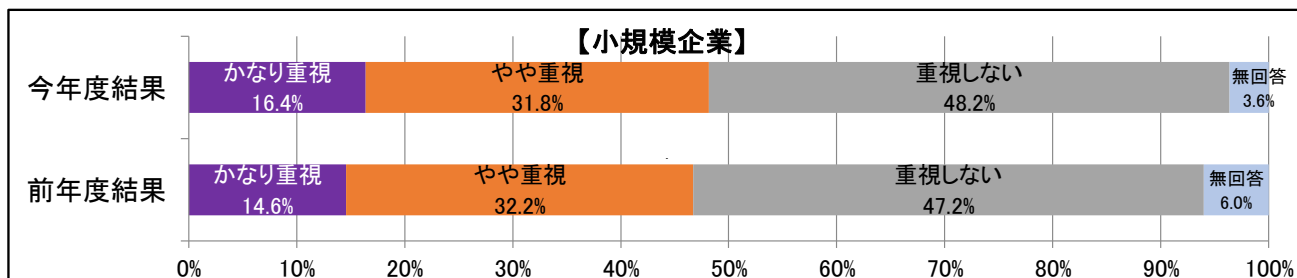
前回同様「重視しない」が43.5%(対前年比+3.9%)でトップ、次いで「やや重視」が33.7%(対前年比-4.5%)という結果となり、順位は変わらないものの、前年と異なり「重視しない」と「やや重視」の割合の差が拡大する結果となった。

規模別の経営上の重視点

＜新分野への進出＞ トップは「やや重視」40.0%



＜新分野への進出＞ トップは「重視しない」48.2%

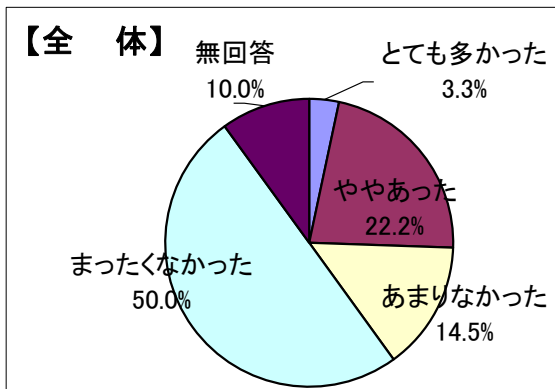


「(かなり+やや)重視する」の割合は【役員・議員】が70.8%(対前年比-8.2%)であるのに対し、【小規模企業】は48.2%(対前年比+1.4%)で、その差は22.6%と前回の32.2%からは縮小したものの、前回同様大きな差がある結果となった。「重視しない」については、【小規模企業】が対前年比で+1.0%に対し、【役員・議員】は対前年比で+6.7%となり、【役員・議員】の方が新分野への進出を重視しない割合が増えていることを示す結果となった。

【インバウンド需要について】

ラグビーワールドカップ期間中の外国人観光客の利用(来店)の有無

わずかながら「あった」が40.0%で、「まったくなかった」が50.0%



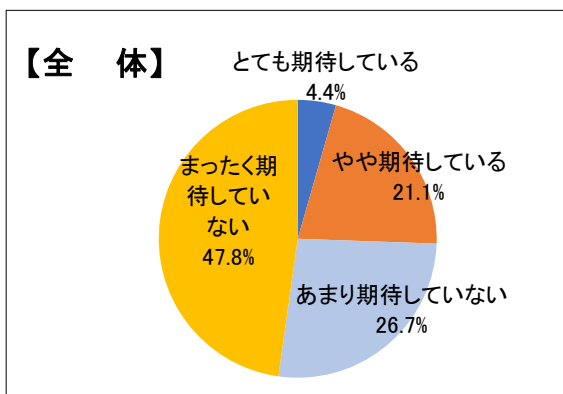
ラグビーワールドカップ期間中の外国人観光客の利用(来店)については、全体の50.0%が「まったくなかった」と回答。

一方で「とても多かった」、「ややあった」、「あまりなかった」の合計が40.0%となり、ラグビーワールドカップ期間中のインバウンド需要については、ほぼ二分化したことを示す結果となった。

【インバウンド需要について】

東京オリンピック・パラリンピック期間中の外国人観光客の利用(来店)についての期待

「まったく期待していない」が47.8%でトップ、次いで「あまり期待していない」が26.7%

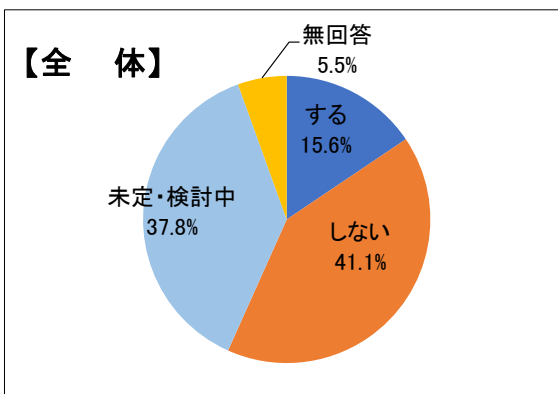


東京オリンピック・パラリンピック期間中の外国人観光客の利用(来店)についての期待は、全体の47.8%が「まったく期待していない」と回答。一方で「とても期待している」、「やや期待している」、「あまり期待していない」の合計が52.2%となり、ほぼ二分化したことを示す結果となった。

【インバウンド需要について】

2020年以降の外国人観光客をターゲットにした取り組みの有無

「しない」が41.1%でトップ、次いで「未定・検討中」が37.8%



2020年以降の外国人観光客をターゲットにした取り組みについては、「する」の15.6%に対し、「しない」が41.1%と大きく上回った。依然として「未定・検討中」が37.8%を占めており、インバウンド需要は視野に入れても模索している企業が多いのではないかとと思われる。

2020年経済予測アンケート

(役員議員・モニター)

景気・業況

Q1-1 貴社の業種について、該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。
(複数の業種にて営業されている場合は、最も売上の大きい業種を選択してください)

- (1) 製造業 (2) 建設業 (3) 運輸・通信業
(4) 卸・小売業 (5) 飲食業 (6) 金融・保険業
(7) サービス業・不動産業 (8) その他 ()

Q1-2 景気の現状について昨年(2018年)11月と比較して、どのように感じておられますか。該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

- (1) かなり好転 (2) やや好転
(3) 変わらない (4) やや悪化
(5) かなり悪化 (6) その他 ()

Q1-3 現在(2019年11月)の貴社の業況を基準に、2020年の業況の見通しについて、どのように予測されますか。該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

- (1) かなり好転 (2) やや好転
(3) 変わらない (4) やや悪化
(5) かなり悪化 (6) その他 ()

円市場

Q 2 - 1 現在（2019年11月中旬）の為替水準を基準に、2020年の円市場の見通しについて、どのように予測されますか。
該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

※参考 東京外国為替 円(1ドル=円) (11月13日)

【始値】 108.98 【高値】109.14 【安値】 108.64 【終値】 108.81

(1) 円安傾向が進む (2) ほとんど変化はない (3) 円高傾向に進む

Q 2 - 2 貴社にとって望ましい為替水準はいくらですか？該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

- | | |
|---------------|---------------|
| (1) 90円未満 | (2) 90円～99円 |
| (3) 100円～109円 | (4) 110円～119円 |
| (5) 120円～129円 | (6) 130円以上 |

株式市場

Q 3 - 1 2020年の株式市場の見通しについて、現在（2019年11月中旬）の株式市場の水準を基準に、どのように予測されますか。
該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

※参考 国内株式 日経平均(円) (11月14日)

【始値】 23,325.5 【高値】 23,360.06

【安値】 23,062.16 【終値】 23,141.55

(1) 株安傾向が進む (2) ほとんど変化はない (3) 株高傾向に進む

Q 3 - 2 貴社にとって望ましい株価水準（日経平均）はいくらですか？該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

- | |
|---------------------|
| (1) 15,000円未満 |
| (2) 15,000円～16,999円 |
| (3) 17,000円～18,999円 |
| (4) 19,000円～20,999円 |
| (5) 21,000円～22,999円 |
| (6) 23,000円以上 |

金利

Q 4 2020年における金利の見通しについて、今年（2019年11月中旬）の金利水準を基準に、どのように予測されますか。
該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

(1) 低金利傾向が進む (2) ほとんど変化はない (3) 高金利傾向に進む

経営の問題点

Q 5 2020年における貴社の経営上の問題点を、どのように予測されますか。
該当する番号を3つ以内で、○でお囲み下さい。

- | | |
|---------------------------|------------------|
| (1) 人手不足 | (2) 後継者の確保・育成 |
| (3) 需要やニーズの停滞・変化 | (4) 取引条件の悪化 |
| (5) 金利負担の増加 | (6) 事業資金の借入難 |
| (7) 原材料価格の上昇 | (8) 人件費の増加 |
| (9) 材料費・人件費以外の経費の増加 | (10) 販売・利用価格の上昇難 |
| (11) 大型店、競合店の進出による競争激化 | |
| (12) ネット通販の普及による競争激化 | |
| (13) IT化（IoT・AIの活用等）への対応難 | |
| (14) その他() | |

経営の重視点

Q 6 2020年に貴社の経営上、重視される点についてどのように予測されますか。なお、本問では回答集約の都合上、選択肢を下記の6項目に限定させて頂いております。該当の□欄に○印をお付け下さい。

	かなり重視	やや重視	重視しない
1. 売上高（完工高、取扱高）			
2. 収益			
3. マーケティング・販路開拓			
4. 人材の確保・育成			
5. IT化の推進			
6. 新分野への進出			

(※追加調査)

インバウンド需要について ※該当される企業のみご回答ください。

Q7-1 10月6日と13日にラグビーワールドカップの試合が熊本で開催されましたが、大会期間中に貴社では外国人観光客の利用(来店)はありましたか?該当する番号を1つだけ○でお囲み下さい。

- (1) とても多かった (2) ややあった
(3) あまりなかった (4) まったくなかった (5) 該当しない

Q7-2 11月30日からは女子ハンドボール世界選手権大会が県内5会場で開催され、さらに2020年の東京オリンピック・パラリンピックでは、世界各国からの観戦者が全国各地を観光することが期待されます。貴社ではオリパラ期間中における外国人観光客の利用(来店)について、どの程度期待されていますか?

- (1) とても期待している (2) やや期待している
(3) あまり期待していない (4) まったく期待していない
(5) 該当しない

Q7-3 2020年以降、貴社では外国人観光客をターゲットにした取り組みをされますか?

- (1) する (2) しない (3) 未定・検討中 (4) 該当しない

コメント

熊本地震からの復興や熊本経済の発展に向けて、必要なこと、期待すること等について、ご意見、ご提言等ございましたら、ご自由にご記入願います。

※差支えなければ、事業所名のご記入をお願い致します。

(事業所名)

お忙しい中、アンケートへのご協力ありがとうございました。
熊本商工会議所 商工観光振興部 商工観光振興課
TEL 096-354-6688 FAX 0120-268-343/352-5202